

マレーシア国
レジデンシャル・スクール
日本語教師隊員活動中間報告書

平成 4 年 1 月

国際協力事業団
青年海外協力隊事務局

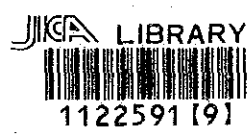
青 派 一

J R

91 - 04

国際協力事業団

28469



28469

はじめに

「マレーシア国レジデンシャル・スクール日本語教師隊員活動中間報告書」作成にあたって

1984年に開始された教育省レジデンシャル・スクール（以下RS）に対する日本語教師隊員の派遣も、すでに7年を経過した。この間、40人を超す隊員がRSにおける日本語教育プロジェクトに携わってきた。個々の隊員及び各校における活動実績は、各隊員の報告書を通して記録・報告されている。しかしながら、継続しているプロジェクトとしての流れ（背景・経緯）や、派遣される隊員があらかじめ理解し、基本的に認識しておくべき事項は、必ずしもひとつにまとめられ、整理されてはいなかった。

ここで、これまでのプロジェクトの流れを振り返り、プロジェクト遂行に当たって、特に重要と思われる基本的事項を中間報告書としてまとめることにした。派遣中の隊員には、これを再度確認し認識を深めることを、また、これから派遣される隊員には事前にこれを認識しておくことによって、赴任後スムーズにプロジェクトに参画することを可能ならしめることが、この報告書の目的である。また、さらに、我々の行ってきたプロジェクトの内容を外部の関係各位に知って頂くことをも目的としている。

なお、当然のことながら、この日本語教育プロジェクトは現在進行中であり、プロジェクトを取り巻く環境や条件は常に流動的で、変化している。あくまでも現時点でわかる範囲の記述となるであろう。この点をご承知の上で参考として頂きたい。

最後に、この報告書をまとめるに当たりご協力いただいた方々に深く感謝申し上げる。

1991年12月
中間報告書作成委員会

略称一覧

略称	正式名	日本語名
・ R S	Residential School	レジデンシャル・スクール（全寮制中等学校）
・ J I C A	Japan International Cooperation Agency	国際協力事業団
・ J O C V	Japan Overseas Cooperation Volunteers	青年海外協力隊
・ A A J	Ambang Ashan Jepun (Rancangan Persediaan Khas)	日本留学予備教育課程
・ S M S A H	Sekolah Menengah Sultan Abdul Halim	スコー・ムンガ・スルタン・アブドゥル・ハリム
・ K M K K	Kolej Melayu Kuala Kangsar	コレッジ・ムレイ・クアラ・カンサー
・ S T A R	Sekolah Tuanku Abdul Rahman	スコー・トゥアンク・アブドゥル・ラーマン
・ S A S	Sekolah Alam Shah	スコー・アラム・シャー
・ K T K	Kolej Tunku Kurshiah	コレッジ・トゥンク・クルシア
・ S T F	Sekolah Tun Fatimah	スコー・トゥン・ファティマ
・ S T M F P	Sekolah Tengku Mohammad Faris Petra	スコー・トゥンク・モハメド・ファリス・プトゥラ
・ S D A R	Sekolah Datuk Abdul Razak	スコー・ダト・アブドゥル・ラザク
・ U P S R	Ujian Penilaian Sekolah Rendah	小学校学力試験
・ S R P	Sijil Rendah Pelajaran	中学修了資格試験
・ S P M	Sijil Pelajaran Malaysia	高校修了資格試験
・ S T P M	Sijil Tinggi Persekolahan Malaysia	大学入学志願資格試験

目次

I. 隊員活動の概要と経緯	1
1. 要請背景	3
2. 経緯	4
II. 隊員活動の実績	9
1. マレーシア日本語教師隊員配置図	11
2. 学校案内	12
3. 日本語教師隊員任期一覧	13
4. 日本語履修者数	14
III. マレーシアの教育概要	15
1. 教育制度	17
1) 理念	17
2) 学制	17
3) 全国統一試験	18
4) 教育システム	19
2. 教育省組織図	20
3. マレーシアの日本語教育	21
IV. レジデンシャル・スクールの概要	23
1. レジデンシャル・スクールの教育	25
1) RSの教育哲学	25
2) RSの目的	25
3) RSの目標	25
4) RSの特徴	26
5) 教育課程	26
6) 生徒の授業日の日課	27
7) RSと日本語教育	27
2. レジデンシャル・スクールの組織図	28
V. 隊員活動の内容	31
1. 学内業務	33
1) 年間スケジュール例	33
2) 日本語教師校内業務一覧	35
3) RS教師に求められるもの	35
2. 日本語教師会議	36
1) 会議の意義	36
2) 経緯	36
3) 内容	37
3. 教材等の作成	38
1) 作成背景	38
2) シラバス	38

3)教科書「にほんご こんにちは」	39
4)シラバス解説書	39
5)補助教材「れんしゅうノート」	39
6)共通テスト	40
4. その他	41
1)作文コンテスト	41
2)教育省試験	42
VI. 隊員活動の問題点と今後の課題	43
1. 問題点	45
2. 今後に向けて	48
VII. 隊員エピソード	49
巻末資料	57
1. シラバス	61
2. 教科書	63
3. れんしゅうノート 1～4	70
4. 教師用マニュアル	73
5. 各校保有教材リスト	75
6. 現行カリキュラム	79

I. 隊員活動の概要と経緯

I. 隊員活動の概要と経緯

1. 要請背景

初回の要請は1983年に出された。これはマハティール首相が強力に推進する東方政策（ルックイースト政策）の一環として始められたものである。東方政策は従来の欧米志向を離れ、東方、すなわち日本、韓国から工業技術などを学び、国の発展に役立てようとするものである。このためには日本語の習得が第一歩であり、若年層からの日本語のわかる人材の育成が必要だとして、日本語教師隊員の受け入れにより、中等教育レベルで日本語教育を実施することとなった。長期的展望に立った国家計画である。

当時このほかにマラヤ大学、マレーシア国民大学、マレーシア農科大学に日本語のコースがあり、前二者は将来の留学、日本からの講師招聘を前提としていた。また、企業研修に参加する青年たちには6か月の事前日本語学習が義務づけられるなど、日本語学習熱は高かった。こうした中で語学習得能力の高い若年層を対象としての講座を開設することは極めて思いきった決断だったといえよう。JOCVとしても緊急短期派遣まで視野に入れての優先扱いであった。

初回要請書による目的は次のとおりである。

『中等教育終了後、日本の大学に入るための6か月の集中日本語コースについていくことができるようにすること』

- 1) 13才の生徒（1年生）に4年半教える。
- 2) 16才の生徒（4年生）に1年半教える。
- 3) 13才から17才の生徒（1～5年生）に混成の会話クラスを作って教える。

中等教育レベルへの日本語の正式導入は初めてであり、生徒は初めて日本語に触れること、教材等何もないことなどが注意点としてあげられている。

次項で見るとおり、具体的な方法、目標にはその後いくつかの転換がなされたが、現在も『日本語を学問知識吸収のための媒体、特に日本の大学において学業を継続する場合の媒体となし得るよう、RSの生徒を日本語に親しませ、これを自由に使えるようにすること』を目的としている。

2. 系章

レジデンシャル・スクールにおける日本語教育の変遷

1982年 マハティール首相の提唱する東方政策の一環として、マレーシアの日本語教育に対するJOCV協力打診があった。

1983年 8月 RSの日本語教師隊員の派遣要請があった。

1984年 1月 マレーシア教育省は、6校で日本語を第2選択外国語のひとつとしてスタートさせる予定だったが、JOCVの対応が間に合わず、KMKK、KTKの2校でとりあえず始められた。

目的： マレーシア国費留学生として日本に留学させるための、日本語の予備教育。（初級日本語レベル終了が到達目標）

対象： RSの生徒（当初は以下の2学年のみ）

1. 1年生スタートコース
2. 4年生スタートコース

学校での位置付け： 必修選択の第2外国語の1科目
（アラビア語、フランス語、日本語から選択。各学年40名～70名の生徒が各校で日本語を学習。）

期間： 1. 1～5年生までの5年間（13～17才）
2. 4～5年生までの2年間（16～17才）

学習時間： 1. 年間約 60時間×5年間＝300時間
2. 年間約100時間×2年間＝200時間

教科書： 日本語初歩（国際交流基金）

生徒の進路に関する

教育省の意向： 1. マレーシア教育省は5年間のコース修了者をそのまま日本へ留学させる考えであったが、5年生卒業時は17才で、日本の大学入学資格の要件を満たしていない。また学習時間の不足のため、留学に必要な日本語能力の修得は困難なことが予想された。
2. 同じく、2年間のコース修了者は更に1年間の集中コースを受講させてから留学させる考えであった。

教師： JOCV派遣の日本語教師が各校1名配属され、コース運営にあたる。

8月 SMSAH、STAR、SAS、STFにJOCV日本語教師配属。

1984年 9月

教育省の意向：1. 5年間コース・・・学習時間が不十分なことが判明し、本コース修了後、マラヤ大学予備科の2年目に編入させるよう変更。

2. 2年間コース・・・留学に必要な日本語の能力に達しないことが判明したため、「一般教養としての日本語」というコース目的に変更。

1985年 3月 佐久間勝彦東京外国語大学助教授（JOCV技術専門委員）視察。

8月 大坪一夫筑波大学教授視察。

〃 教育省、4年生でSRP（後述）実施を示唆。

9月 国際交流基金よりJOCV視察団来マレーシア。国際交流基金からRSに対する協力の用意のある旨、教育省へ伝達。

10月 国際交流基金、JOCV間協議。RS日本語教育の為に、スーパーバイザーを派遣することで合意。

12月 評価： 4年生の10月時点において試験を実施し、その合格者について5年生でSPM（後述）を受験させ、留学の資料とする旨、教育省が示した。試験作成はJOCVに一任したいとの意向。

教育省の意向： 本コース修了後、マラヤ大学予備教育課程で2年間学習した後に留学させるよう変更。

1986年 1月 KMKK、KTK、STFにそれぞれ教師が2名配属され、全学年に対して日本語教育を行なう。

2月 人事院、教育省、日本大使館が日本語教育について協議。

4月 シラバス： 日本語教師隊員に対し、教育省、大使館、JOCVオフィスからSRP SPM実施に向けて、シラバスを整備するよう要請がある。これを受けて、「日本語初歩」を基準にシラバスを作成することで合意。

スーパーバイザー： 大使館より教育省に対し、SRP、SPM実施に向けて、スーパーバイザーを置いてはどうかという提案があった。

共通テスト： 6校共通テスト（JOCV作成）を定期的に実施することに決定。このテストは各校の学習進路をそろえ、生徒に動機付けを与え、また教師の反省資料を得る為、年2回実施する。

初回は1986年7月 /（1990年度より、各学年1回となる。）

1986年 4月 JOCV事務局より6校に「日本語初歩」その他の教材が寄贈される。

日本語教育会議： 教育省主催の日本語教育会議が開かれる。
議長は Hj Ismail氏（学校局）。2月の人事院と大使館、教育省との会議を受けて開催されたものと思われる。JOCV日本語教師隊員に対して、シラバスを提出するよう、再度要請があった。

5月 シラバス： 教育省提出用シラバス（日本語初歩ベース）を日本語教師会議で作成。

シラバス作成： 教育省の要請でシラバス作成小委員会が招集される。
議長はSaid教授（マラヤ大学）、メンバーはマラ工科大学、マラヤ大学JOCV（KTK、SASの日本語教師）。よって隊員作成のシラバスは未提出のまま流れた。
この後、2週間に一度のペースでミーティングがもたれ、8月まで作業を続ける。

視察： 国際交流基金よりRSの日本語コースの視察の為、永保澄雄派遣専門家来マレーシア。KTK、SASの2校の授業視察と指導、並びに教育省、大使館関係者と会談する。

6月 学校局局长より、大使館に対しアドバイザーの要請。その後人事院の拒否により要請撤回。

7月 第1回共通テスト実施。

〃 教師： STARを除く5校は2名体制となる。

8月 3学期開始と同時に新シラバスに沿った授業を開始する。

〃 新シラバス完成。基本構文を中心にかなり学習内容を制限したものとなる。

9月 新シラバスを教育省に提出。

1987年 1月 教師： 全校教師2名体制となる。

人事院、教育省

RS校長会議： *教育省試験を本年度実施することで合意。（認定証発行）
*5年生授業は校長判断で任意実施。

3月

日本語教育会議： 教育省、マラヤ大学、人事院が日本語教育に関する会議を開く。
席上、日本語のSRP、SPM実施に向けて必要事項を話し合う。とり

あえずSRPの前段階として統一試験を実施するという方向で話がまとまる。また、SRP、SPM用のシラバスが必要という教育省からの要請があった。この時点で、正式なシラバスは、カリキュラム中央委員会と教育計画委員会が作成、認定するまで最低3年を要すること、SRPは1990年、SPMは1992年に実施予定とすることが確認された。

通達： 授業は原則として午前中に行なう事とし、少なくとも週1ピリオドは午前中に行なうように、各校に対して通達した。

6月 マラヤ大学にて日本語会議。

本年10月、教育省試験を実施することで最終確認。問題作成はマラヤ大学に依頼。

7月 第1回RS作文コンテスト実施。（以後、毎年同時期に実施）

9月 第1回RS作文コンテスト入賞者の表彰式が大使館で行われた。

10月 第1回教育省試験実施。（以後、毎年同時期に実施）

11月

シラバス改訂版作成。

12月

1988年 4月 人事院が日本留学に関する説明会を各校で開始。

8月 教育省、マラヤ大学（国際交流基金龍田俊夫専門家）、JOCVによる会議で、RSの日本語コースを留学準備用と教養用の2コースに分ける考えがあることを教育省が示唆。

9月 第1回教育省試験優秀者の表彰式が、大使館で行なわれた。

11月 教科書原稿完成。

1989年 3月 シラバス解説書完成。

4月 教育省学校局より再度、日本語専門家（JICA専門家で、学校局傘下のRSに配属させる予定）派遣の可能性打診が大使館側にあった。

5月 教科書「にほんご こんにちは」が完成。

6月 6校のRSで日本語を学習してきた生徒のうち29名が、マラヤ大学予備教育課程に入学。

11月 日本・マレーシア両政府の間で、マレーシア人日本語教師養成に関する協議が開催された。(於：東京)

1989年12月 学期制変更。(3学期制→2学期制)

1学期：12月上旬～5月中旬、 2学期：6月中旬～10月下旬

1990年 4月 日本語教師候補者(マレーシア政府奨学生)10名、日本へ留学。(5年間)
5月 「れんしゅうノート1」完成。

6月 マラヤ大学予備教育課程に、6校のRSで日本語を学習した生徒6名が入学。

8月 「れんしゅうノート2」完成。

12月 教育省より平成2年度文化無償案件として、LL教室用機材供与申請。(4校)

1991年 3月 RSの第1期日本語履修者約20人を含むAAJ終了者80人が日本へ留学。

〃 「れんしゅうノート3」完成。

5月 シニア派遣。

業務： a. JOCV日本語教師のリーダー的存在
b. JOCV日本語教師のアドバイザー的存在
c. 教育省とJOCVとの調整役。

カウンターパート： 教育省学校局次長 Wan Fauzi 氏

8月 人事院主催の日本語会議あり。(RS校長、マラヤ大学、マラ工科大学関係)

9月 教育省からの提案を受けて、定例日本語教師会議が初めてRSにて開催される。

〃 教育省より、日本語クラス新設校の発表あり。

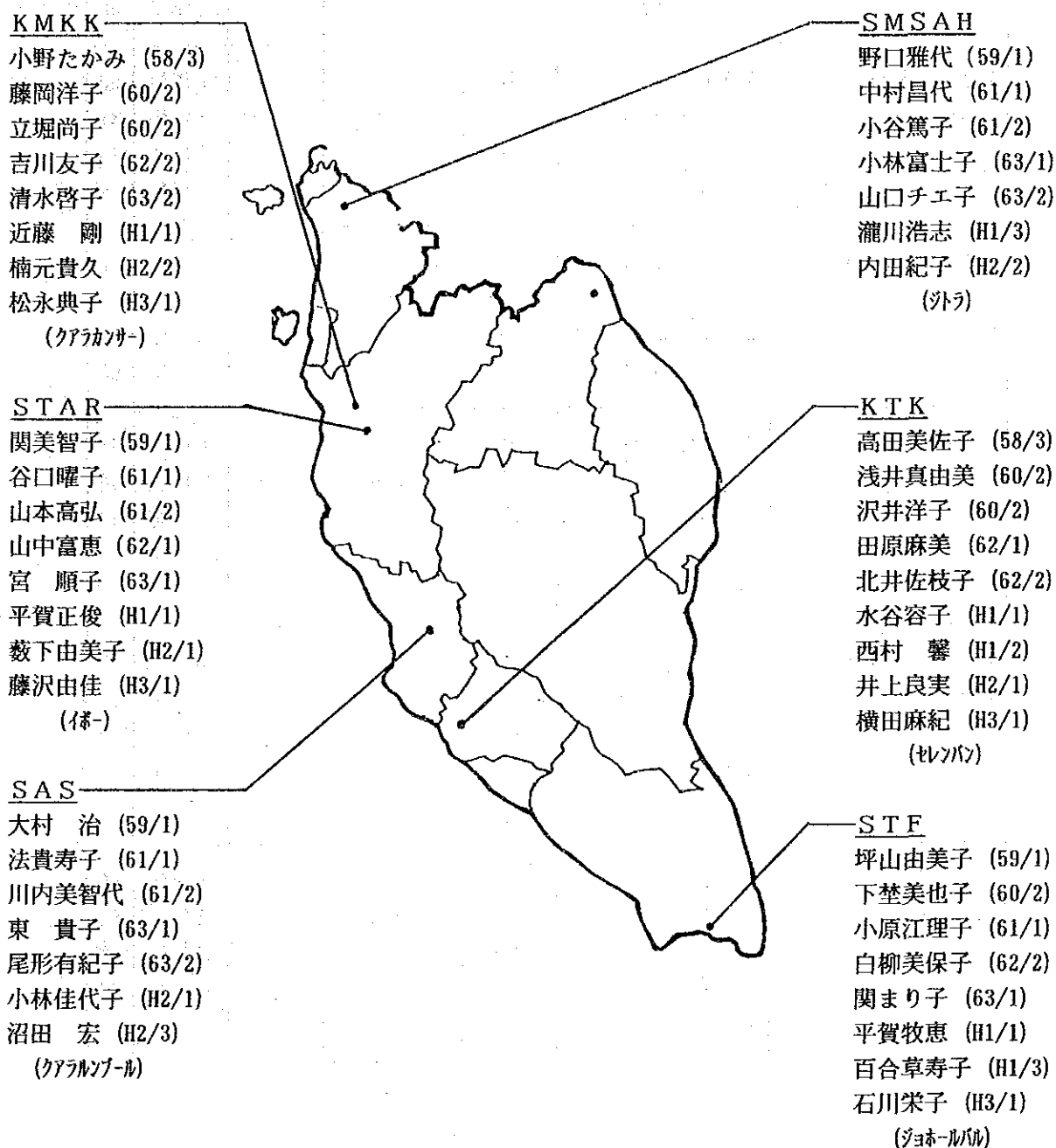
・STMFP : Sekolah Tengku Mohammad Faris Petra (コタバル 共学校)
・SDAR : Sekolah Datuk Abdul Razak (セレンバン 男子校)

尚、開設時期は92年12月の予定。

Ⅱ. 隊員活動の実績

II. 隊員活動の実績

1. マレーシア日本語教師隊員配置図



2. 学校案内

正式名称 (略称)	住所	男・女	全校生徒数	日本語学習者数 (1991年10月現在)		
Sekolah Menengah Sultan Abdul Halim (SMSAH)	06009, Jitra, Kedah Tel:04-743209	共 学 校	630	230	1年生 2年生 3年生 4年生	57 55 60 58
Kolej Melayu Kuala Kangsar (KMKK)	33000, Kuala Kangsar, Perak Tel:05-861400	男 子 校	600	170	1年生 2年生 3年生 4年生	50 31 40 49
Sekolah Tuanku Abdul Rahman (STAR)	Jalan Sultan Azlan Shah, 31400, Ipoh, Perak Tel:05-557733	男 子 校	600	222	1年生 2年生 3年生 4年生	60 55 54 53
Sekolah Alam Shah (SAS)	Jalan Tenteram, Bandar Tun Razak 56000, Kuala Lumpur Tel:03-9318393	男 子 校	600	146	1年生 2年生 3年生 4年生	38 38 42 28
Kolej Tunku Kurshiah (KTK)	Jalan Tunku Kurshiah, 70400 Seremban Negeri Sembilan Tel:06-725351	女 子 校	630	184	1年生 2年生 3年生 4年生	56 47 39 42
Sekolah Tun Fatimah (STF)	Jalan Tun Abdul Razak, 80000, Johor Bahru, Johor Tel:07-364706	女 子 校	700	224	1年生 2年生 3年生 4年生	60 53 62 49

3. 日本語教師隊員任期一覧

1991年12月31日現在

配属先	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94
SEKOLAH MENENGAH SULTAN ABDUL HALIM シラ	野口雅代 (59/1) 7/26 ○	中村 昌代 (61/1) 7/26 ○	小谷篤子 (61/2) 12/15 ○	小林富士子 (63/1) 7/11 ○	山口子エ子 (63/2) 1/4 ○	瀧川浩志 (1/3) 3/31 ○	楠元豊久 (2/2) 12/3 ○	松永典子 (3/1) 7/15 ○	内由紀子 (2/2) 12/3 ○	内由紀子 (2/2) 12/3 ○	内由紀子 (2/2) 12/3 ○	内由紀子 (2/2) 12/3 ○	内由紀子 (2/2) 12/3 ○
KOLEJ MELAYU KUALA KANGSAR	小野たかみ (58/3) 1/23 ○	藤岡洋子 (62/2) 12/16 ○	立堀尚子 (60/2) 2/4 ○	吉川友子 (62/2) 12/6 ○	清水啓子 (63/2) 2/1 ○	近藤 剛 (1/1) 7/12 ○	平賀正俊 (1/1) 7/12 ○	平賀正俊 (1/1) 7/12 ○	平賀正俊 (1/1) 7/12 ○	平賀正俊 (1/1) 7/12 ○	平賀正俊 (1/1) 7/12 ○	平賀正俊 (1/1) 7/12 ○	平賀正俊 (1/1) 7/12 ○
クワカンサー	関 美智子 (59/1) 7/26 ○	谷口曜子 (61/1) 7/26 ○	山本高弘 (61/2) 12/15 ○	山中麗恵 (62/1) 7/30 ○	宮 順子 (63/1) 7/11 ○	平賀正俊 (1/1) 7/12 ○	平賀正俊 (1/1) 7/12 ○	平賀正俊 (1/1) 7/12 ○	平賀正俊 (1/1) 7/12 ○	平賀正俊 (1/1) 7/12 ○	平賀正俊 (1/1) 7/12 ○	平賀正俊 (1/1) 7/12 ○	平賀正俊 (1/1) 7/12 ○
SEKOLAH TUANKU ABDUL RAHMAN イボ	大村 治 (59/1) 7/26 ○	法橋壽子 (61/1) 7/26 ○	川内美智代 (61/2) 12/15 ○	東 真子 (63/1) 7/11 ○	尾形有紀子 (63/2) 1/4 ○	小林佳代子 (2/1) 7/12 ○	小林佳代子 (2/1) 7/12 ○	小林佳代子 (2/1) 7/12 ○	小林佳代子 (2/1) 7/12 ○	小林佳代子 (2/1) 7/12 ○	小林佳代子 (2/1) 7/12 ○	小林佳代子 (2/1) 7/12 ○	小林佳代子 (2/1) 7/12 ○
SEKOLAH ALAM SHAH	高田美佐子 (58/3) 1/23 ○	浅井真由美 (60/2) 12/16 ○	澤井洋子 (60/2) 12/16 ○	田原麻美 (62/1) 7/30 ○	北井佐枝子 (62/2) 12/16 ○	水谷啓子 (1/1) 7/12 ○	水谷啓子 (1/1) 7/12 ○	水谷啓子 (1/1) 7/12 ○	水谷啓子 (1/1) 7/12 ○	水谷啓子 (1/1) 7/12 ○	水谷啓子 (1/1) 7/12 ○	水谷啓子 (1/1) 7/12 ○	水谷啓子 (1/1) 7/12 ○
クワ カンサー	高田美佐子 (58/3) 1/23 ○	浅井真由美 (60/2) 12/16 ○	澤井洋子 (60/2) 12/16 ○	田原麻美 (62/1) 7/30 ○	北井佐枝子 (62/2) 12/16 ○	水谷啓子 (1/1) 7/12 ○	水谷啓子 (1/1) 7/12 ○	水谷啓子 (1/1) 7/12 ○	水谷啓子 (1/1) 7/12 ○	水谷啓子 (1/1) 7/12 ○	水谷啓子 (1/1) 7/12 ○	水谷啓子 (1/1) 7/12 ○	水谷啓子 (1/1) 7/12 ○
KOLEJ TUNKU KURSHIAH	坪山由美子 (59/1) 7/26 ○	下埜美也子 (60/2) 12/16 ○	小原江理子 (61/1) 7/26 ○	白柳美保子 (62/2) 12/16 ○	関まり子 (63/1) 7/11 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○
セリンパ	坪山由美子 (59/1) 7/26 ○	下埜美也子 (60/2) 12/16 ○	小原江理子 (61/1) 7/26 ○	白柳美保子 (62/2) 12/16 ○	関まり子 (63/1) 7/11 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○
SEKOLAH TUN FATIMAH	坪山由美子 (59/1) 7/26 ○	下埜美也子 (60/2) 12/16 ○	小原江理子 (61/1) 7/26 ○	白柳美保子 (62/2) 12/16 ○	関まり子 (63/1) 7/11 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○
ジョホーカン	坪山由美子 (59/1) 7/26 ○	下埜美也子 (60/2) 12/16 ○	小原江理子 (61/1) 7/26 ○	白柳美保子 (62/2) 12/16 ○	関まり子 (63/1) 7/11 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○	平賀牧恵 (1/1) 7/12 ○

4. 日本語学習者数

(1984～1991)

学校名	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	合計
SMSAH	51	61	49	64	58	60	55	57	455
KMKK	46	61	58	51	49	40	32	50	387
STAR	53	60	66	67	57	60	56	60	479
SAS	35	44	32	40	32	43	38	38	302
KTK	51	53	58	51	42	41	47	56	399
STF	56	51	60	58	55	64	54	60	458
合計	292	330	323	331	293	308	282	321	2,480

* 上表は、1年次に第2外国語として日本語を選択した生徒の数である。

* 日本語教育開始当初は、この他に会話クラス、4年生クラスなどがあり、RSで日本語を学習した生徒の実数は上表よりも多くなる。

Ⅲ. マレーシアの教育概要

Ⅲ. マレーシアの教育概要

1. 教育制度

1) 理念

発展を続けるマレーシアでは有能な人材の育成が急務となっており、第6次マレーシア計画・第二次2000年への展望などにおいても、教育は重点的に扱われている項目のひとつである。

政策としては、1957年の教育令において「国民の必要を満たし、その文化的、社会的、経済的、政治的發展を促進する教育システムの確立」を掲げている。

教育理念は学習指導要領において次のように規定されている。

「マレーシアにおける教育とは、神への信仰と従順に基づいた、知性・精神・情緒・身体の面において調和と平衡の取れた人間を創るために、各種の教科・活動を幅広く学び、それを統合していくことにより、個人の潜在能力をより開花させていくための留まることのない努力である。この努力は、知識豊かで、高い人間性を持ち、個人のみならず、社会のために、責任を持って調和の取れた豊かな社会を創るために貢献する、マレーシアの市民を生み出すためである。」

具体的には、83年に初等教育に、89年に中等教育に導入された「新カリキュラム」において、「適切な知識・技術、及び強いモラル・道徳的価値のふたつのバランスがとれた人間を育成すること」を目標としている。

2) 学制

マレーシアの学制は、初等教育、中等教育、高等教育の3段階に分かれる。

初等教育は日本と同じ6年制である。無償ではあるが、義務教育ではない。1990年現在の就学率は98%である。小学校は、マレーシア語系のほかに中国語系やタミール語系などがあるが、後者で学んだものは、中学校に進学する前にマレーシア語の能力を高めるために準備講座（リムーブクラス）で1年間学ぶ。

中等教育は、日本の中学にあたる1年から3年、高校にあたる4年、5年、更に、6年や大学予備教育課程などの3段階に分かれる。

1年から3年までは自動的に進級できるが、3年時における全国統一試験（SRP）に合格しないと4年に進級することはできない。4年、5年は、普通、工業、職業訓練とコースが分かれ、SRPの結果によってそれぞれの教育機関に進学する。

また、5年終了時にも全国統一試験（SPM）があり、この結果によって6年、大学予備教育課程、高等専門学校、教員養成校などに進学する。

大学予備教育課程というのは、SPMの成績によってすでに大学への入学が決まった生徒が、大学に入る前に2年間の予備教育を受けるコースである。

6年は2年制であり、この期間に大学に入るための予備教育を受ける。ただし、6年に進んだ生徒は、6年時の全国統一試験（STPM）を経て大学へ進学する。

3) 全国統一試験

マレーシアでは 以下に述べる4つの全国統一試験が行われている。

- UPSR : Ujian Penilaian Sekolah Rendah (小学校学力試験)
- SRP : Sijil Rendah Pelajaran (中学修了資格試験)
- SPM : Sijil Pelajaran Malaysia (高校修了資格試験)
- STPM : Sijil Tinggi Persekolahan Malaysia (大学入学志願資格試験)

UPSRは、小学6年時において行われ、この試験で優秀な成績を修めたものは全国に34校あるRS(5年制)などに進学する。

SRPは、中等学校3年時において行われ、この試験に合格しないと4年に進級することはできない。不合格となったものは1年間だけ在籍できる(3年に留まって)が、次年度でも不合格となると学校で勉強を続けることができず、3年で学校を終わることになる。

SPMは5年終了時に行われ、この試験の成績によって進学先が決まる。優秀な成績を修めたものは大学の入学先が決まり、進学先の大学の予備教育課程で2年間学んだ後大学に入学する。

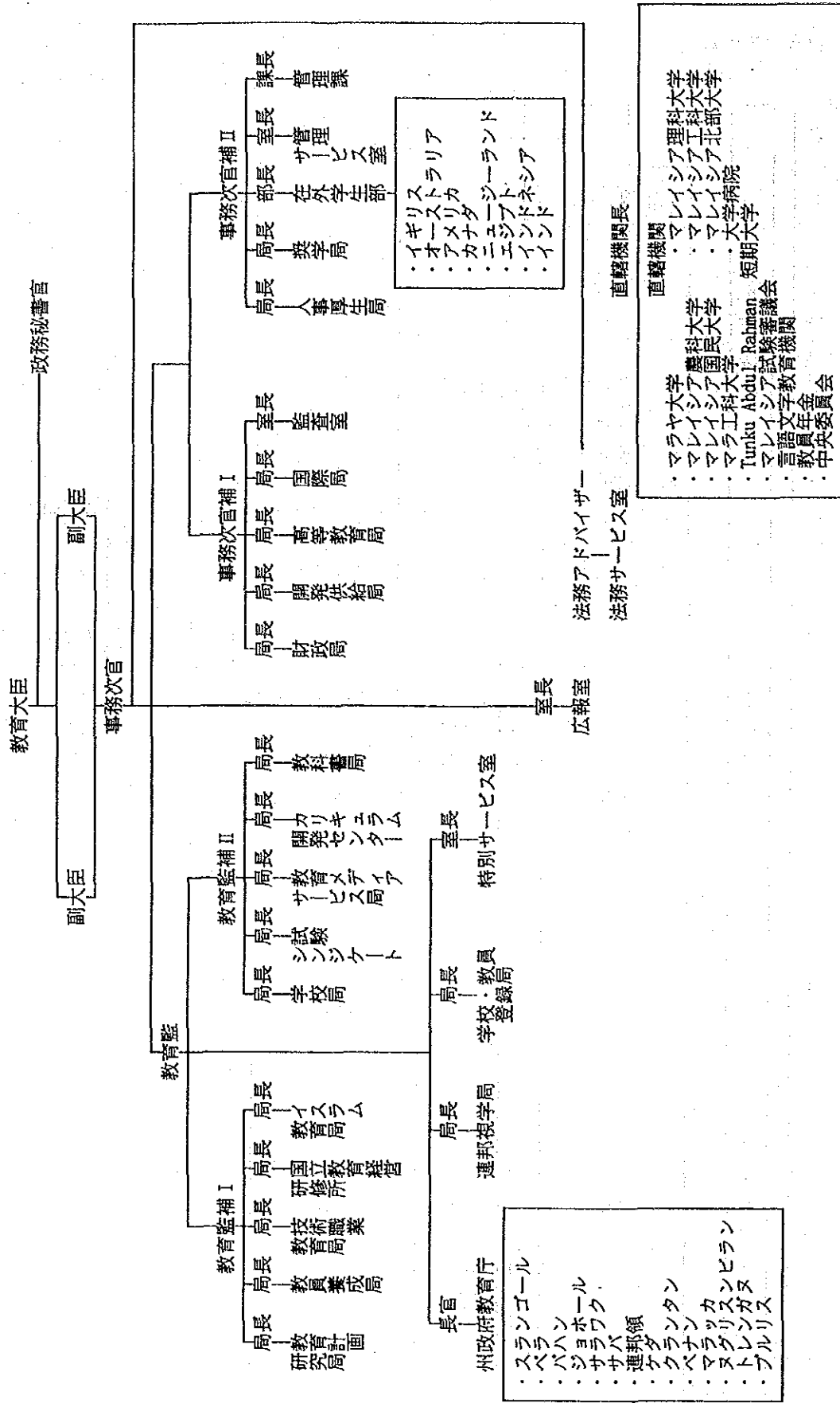
この時点で進学が決まらなかったものは6年に進み、STPMを受けて大学入学先を決めることになる。

また、5年終了後、大学進学のほか、高等専門学校、教員養成校などに進めるが、SPMの成績によって進学先が決まる。

4) 教育システム



2. マレーシア教育省組織図



3. マレーシアの日本語教育

マレーシアにおける日本語教育は日本企業の進出など日本の経済力の影響が強くなるに伴い、ますます盛んになってきている。

日本語ができると有利だという意識から、一般の日本語学習熱は高い。1991年より国家公務員でも日本語ができる者が日本語を要するポストにつくと手当ががつくようになった。「日本語能力試験」の受験者数も毎年増加している。

日本語教育には学校教育として行われるものとそれ以外のものがあるが、以下に三つに大別して述べる。

(1) 大学レベル

全国の7つの大学のうち以下の4大学が選択科目として日本語の授業を持っている。

- ・マラヤ大学
- ・マレーシア国民大学
- ・マレーシア理科大学
- ・マラ工科大学

これらのコースの日本語教師は一部を除き現地教師である。

この他に、マラヤ大学の日本留学予備教育課程（2年）とマラ工科大学の東方政策担当部の産業技術研修生の予備教育コース（6か月）があり、集中教育を行っている。ここで教育に当たっているのはほとんどが日本から派遣された教師である。

(2) 中等教育レベル

授業に取り入れているのは公立校では当報告書で扱っているRS6校のみであるが、その他クラブ（課外授業）として教えている公立校や授業に組み込んでいる私立校等がある。

(3) 学校教育以外

これには民間の語学学校・教室、企業の社内研修、公務員の研修などが含まれる。学習者の数ではこの部分が最も多い。

多言語国家であるマレーシアでは地方の小都市などにも語学教室が数多くあり、そこに日本語のコースも併設されているというケースが多い。日本の日本語学校の分校の形を取るものもいくつかある。

以上のように日本語教育は盛んだが、公的なものも含めてそれぞれの機関が独自に行っている形であり、整理された状態とは言いがたい。いくつかの管轄省庁にまたがる日本語教育の全体を見渡し、調整していく機関は現在のところマレーシアにはない。また、日本側の教師派遣等の協力もいくつかの機関によって行われており、マレーシアの日本語教育は複雑な状況にある。しかしながら、1990年に事務所を、91年に日本文化センターを開設した国際交流基金が今後、マレーシアにおける日本語教育の中心となるものと期待されている。

IV. レジデンシャル・スクールの概要

IV. レジデンシャル・スクールの概要

1. レジデンシャル・スクールの教育

レジデンシャル・スクール（以下RS）は次のように規定されている。

1) RSの教育哲学

バランスがとれ、自分自身と社会とに対し責任ある人間、市民としての輝かしい到達点を目指して、潜在能力を持つ生徒の力を伸ばし発展させるためには、十分に計画、監督された完全な学校教育の環境が必要である。

2) RSの目的

- (1) 潜在能力を持った生徒、特に整備された施設での教育を受けやすい都市部とは条件の異なる地域出身の生徒に機会を与える。
- (2) 国家の必要に応じたさまざまな専門分野の教育を受けるプミブトラ* の生徒の増加。
- (3) リーダーシップ及び社会性の訓練を与える。
- (4) 知識豊かで信仰心篤く、善行に励む人間、国民を生み出すためにマレーシア社会の願いにかなった人間性を育てる。
- (5) 学校の全運営スタッフ、全教職員にRSの目標を具現化し、達成するための努力をなし得るよう、意識を持たせる。
- (6) 輝かしい目標に到達するべく、教育設備を整え、良い学校教育の環境を創る。

*プミブトラ・・・「土着の民」の意で、先住民族とマレー系とを指す

3) RSの目標

- (1) RSの生徒は皆、次の学業成績を修める。

① SRP 総点 10以下	*総計・・・SRPは5、SPMは6を
② SPM 総点 12以下	最良とし、少ないほど良い。
- (2) RSの生徒は皆、次の義務を負う。
 - ① ひとつの制服団体に加入する。
 - ② 少なくともひとつのクラブに加入する。（学年度毎にクラブを変えることができる。）
 - ③ RS在学中は、少なくともひとつのスポーツをする。
 - ④ RSはその参加するすべての競技会において、優勝または準優勝する。
- (3) 一人一人のRSの生徒が、様々な係や活動のグループにおいて、リーダーとなるチャンスを持てるよう、できるかぎり多くの機会を作る。
- (4) RSの生徒は皆、在学中に一度は義務として「精神活動」の講習に出席する。
- (5) 学校、生徒仲間、外部社会にとって有益なRSの全生徒に、社会に奉仕することを勧め、できるかぎり多くその機会を与える。
- (6) RSの全生徒のマレーシア語と英語の運用能力を高める。
- (7) 誠実で適切な判断力、かつ責任感ある行動と態度を育てる。また、開放的、合理的、創造的な考え方、そして、相手に対する敬意を持つことのできる人間に育てる。

4) RSの特徴

RSは、日本語教育導入当時全国に28校、1991年現在は34校あり、小学6年時において行われるUPSRで優秀な成績を修めた者のみが、入学資格を得る。

教育費は食費と一部の教材費以外のほとんどが公費によって賄われ、これら一部自己負担分について奨学金制度もある。施設、設備、教師対生徒の人数比率、教師の有する資格・学歴、作業員数など、どれをとっても一般の公立中等学校とは比較にならないほど恵まれている。また、生徒の学習時間もはるかに多い。6)に見るように、一日に9時限プラスアルファの正規の授業時間以外に机に向かうことを定められている「自習時間」が毎日3～4時間組まれている。

5) 教育課程

教育課程は学校長裁量で変わる部分が大きいのので、次に掲げる表は参考として考えて頂きたい。ある年の、あるRSの時間割である。

学年	1	2	3	4理系	4文系	5理系	5文系
マレーシア語	6	6	6	5	5	5	5
英語	6	6	7	6	6	6	6
基礎理科	5	5	6	8	5	*	5
物理	*	*	*	5	*	5	*
化学	*	*	*	5	*	5	*
生物	*	*	*	5	*	5	*
数学	6	6	6	8	10	10	10
地理	3	3	3	3	3	3	4
歴史	3	3	3	*	3	*	5
公民	*	*	1	1	1	1	1
商業	*	*	*	*	3	*	4
簿記	*	*	*	*	4	*	5
イスラム教	4	4	3	3	3	3	3
家庭科	4	4	4	*	*	*	*
美術	2	2	2	*	*	*	*
体育	2	2	2	2	2	2	2
第二外国語	3	3	3	3	3	*	*
保健	*	*	1	*	*	*	*
朝礼	1	1	*	*	*	*	*
合計	45	45	47	54	48	45	50

表内の数字は各科目の1週の授業時間数を示す

* 1学年は2学期に分かれ、それぞれの学期は1週間程の中間休みにより二分される。

* 週5日、42週

* 1週：9時限×5日+午後の授業

* 1時限：40分

6) 生徒の授業日の日課

(例1 : STF)

5:00~6:00	起床、礼拝
6:45~7:05	朝食
7:10~7:25	体操
7:35~1:55	授業
2:00~3:30	昼食、礼拝、休憩
3:30~4:30	自習時間
4:30~5:00	午後のお茶、礼拝
5:00~6:30	課外活動
6:30~7:30	シャワー、夕食、礼拝
7:30~9:00	自習時間
9:00~9:30	夜のお茶、礼拝
9:30~10:45	自習時間
11:00	就寝

(例2 : STAR)

6:00~	起床、礼拝
6:45~7:15	朝食
7:30~1:50	授業
1:50~3:30	昼食、礼拝、休憩
3:30~4:30	自習時間
4:30~5:15	午後のお茶、礼拝
5:15~6:30	課外活動
6:45~7:15	夕食
7:45~	礼拝
8:00~10:30	自習時間
10:30~	夜のお茶
11:00	就寝

7) RSと日本語教育

マレーシアにおけるエリート校であるRSの、更にその「上位六校」といわれる現行の学校群が、日本語導入校に選ばれた理由として、

- ・東方政策はマハティール首相が強力に推進した計画であること。
- ・将来の日本留学を容易にするためには、相当の優秀者を対象にすべきだと判断したこと。
- ・中等教育に新たに外国語を導入するに当たって、試行的意味もあったこと。

などが考えられる。



V. 隊員活動の内容

V. 隊員活動の内容

1. 学内業務

1) 年間スケジュール例

(1990年度 KTK校)

学期	月日	行 事
一学期前期	<12月> 4日(月) 10日(日) 13日(水) 18日(月) 月 末	始業式、職員会議、時間割配布 日本語能力試験 新4年生オリエンテーション 新1年生入学 月例テスト
	<1月> 16日(水) 23日(水) 19日(土) 月 末	体力測定 日本の大学留学説明会(於:クアラルンプール)※生徒7名引率 月例テスト
	<2月> 12日(月) 17日(土) 24日(土) 3/4(日)	体育大会予選会 体育大会 1学期中間休み
	<3月> 10日(土) 28日(水) 月 末	校内マラソン大会 断食月開始 月例テスト
	<4月> 13日(金) 23日(水)	学期末試験
一学期後期	<5月> 11日(金) 12日(土) 6/3(日)	終業式 学期末休み
	<6月> 4日(月) 12日(火) 16日(土) 20日(水) 月 末	始業式 教師の日 校内英語劇コンテスト 共通テスト(3年生、4年生) 月例テスト
	<7月> 17日(火) 31日(火) 月 末	学校雑誌の写真撮影 作文コンテスト締切 月例テスト
	<8月> 3日(金) 4日(土) 12日(日)	成績優秀者の表彰式 2学期中間休み

↑ 二期 後期 ↓	20日 (月)	SRP模擬テスト
	24日 (金)	月例テスト
	月 末	
	<9 月>	SPM模擬テスト
	10日 (月)	
	21日 (金)	作文コンテスト表彰式 (於：クアラルンプール) 教育省試験模擬テスト SRP
	16日 (日)	
	20日 (木)	
	24日 (月)	
	29日 (土)	
	<10月>	学年末試験
	1日 (月)	
	12日 (金)	
	2日 (火)	
	10日 (水)	
	20日 (土)	
	23日 (火)	
	27日 (土)	
	12/2 (日)	SPM
	<11月>	
	10/29 (月)	
	13日 (火)	
	16日 (金)	
		教育省試験成績優秀者表彰式

2) 日本語教師校内業務一覧

教科指導	生徒指導
・教材研究 ・授業 ・補習授業 ・宿題、ノート等の確認作業 ・試験問題作成と評価 (月例テスト、学期末試験等) ・成績記録	・生活指導 生徒の服装チェック、遅刻者の確認 寮及び教室の清掃・整頓状況チェック ・クラブ活動の指導 (主に日本語クラブの顧問としての業務) ・日直 ・進路指導

その他

- ・学校行事(職員会議、体育大会、校内マラソン大会等)への参加

3) RS教師に求められるもの

まず、RSに配置されるマレーシア人教師は一般校に比し、資格・経歴等においてレベルの高い者が多い。中等教育レベルにおいて、大学卒業資格を持つ教師の割合が38%の当国において、RSの場合はほとんどの教師が大学卒業者である。これを見ても、RSの教師に対する要求・期待が大きいことは容易に想像できる。したがって、JOCVから派遣される日本語教師についても、専門教科の教育技術においてのプロでなければならないことは言うまでもない。

更に、すでに触れたようにRSに学ぶ生徒は13才から17才までの日本の中学・高校を合わせた(1～5年生)生徒たちである。13才という早い時期に親元を離れて集団寄宿生活に入っているが、日本の普通の中高校生と何ら変わることはない生徒たちである。

こうした生徒たちを教えていく上でまず、JOCV隊員に求められるものは「一日本語教師である前に、一中等学校の教師であれ。」と言うことである。学習指導は当然だが、そのみでなく成長期の人間としての生徒のしつけができることが求められている。教師と生徒との一線ははっきりと引きつつも、授業以外のコミュニケーションも持つなどの努力が必要になる。これら「教育者」としての職務遂行のためには、十分な語学力が欠かせない。

また、前項に示されているとおり、学校により日本語教師への要求の程度に多少の差はあるものの、同僚のローカル教師と同様に日直、クラブ活動顧問、学校行事等への参加・協力などの業務を遂行してゆく責務も持つ。

いずれにせよ教育者としての自覚と誇り、そして教師としての自信と威厳を持つことを忘れてはならない。

2 日本語教師会議

1) 会議の意義

教師としてRSに赴任する隊員はその経歴も動機も日本語教育に対する考え方もさまざまである。個々の学校で、日常の業務だけに専念していると、マレーシアの日本語教育全体、RSの日本語教育全体を見渡す視点は持ちにくい。教師である以上全体が見えなくてはより効果的な教育はできない。しかも、マレーシアRSの日本語教育は、システムなどの点でまだ整ったとは言えない段階であり、日本語教師隊員は、直接の教育以外に、これらを整えるための協力もしていかなければならない。グループ活動の利点を最大限に発揮するためには、グループ間に共通の認識と理解が、必要不可欠となる。

2) 経緯

ごく初期においては、各校はそれぞれの判断に基づいて指導を進め、時折持たれた教師会議は情報交換の場という位の意味であったようである。

1986年から、シラバス制定という作業目的を持って、会議が定期的にもたれるようになった。参考までに、これまでの会議開催回数と述べ日数を記す。

1984年度	不明	
1985年度	4回	6日間
1986年度	7回	28日間
1987年度	14回	41日間
1988年度	15回	44日間
1989年度	13回	24日間
1990年度	9回	19日間
1991年度	9回	25日間

会議は教師としての一般業務に支障がないよう、その合間を縫って、週末などの学校の休みに持たれている。このため、初期には勤務先の同僚教師はおろか校長すら、会議の存在や日本語教師の学校外での活動を知らなかったところもある。この反省から報告の必要性に気づき、現在は、会議の計画書、英文議事録などを教育省と学校とに提出するようにしている。

シラバス・教科書の作成に携わっていた時期には、1か月に2回の会議開催などということもあった。プロジェクトを進めていく上でやむを得ないものだったが、過重な業務は本来の教室指導にも影響を及ぼしていた。現在、会議は大まかに月1回、長期会議は年2回、という形になっている。

会議の会場は初期からごく最近まで、JOCVの施設やクアラルンプール市内のホテルの会議室であった。宿泊費、交通費等の経費はすべてJOCVの隊員支援経費によって賄われている。91年に入ってから、省側にさまざまな新しい動きがあり、その中のひとつとして省より、「教師会議の会場として、RSを使ってはどうか」との提案がなされ、すでに2度実施された。この場合、交通費を除く経費は省側が負担している。

また、学校局の担当官も都合のつく場合はこの会議に出席するよう努力しており、現在は、教育省が当会議を自部署の会議として認知していることは明らかである。これは初期からの流れを見る時、大きな進歩であるといえる。

3) 内容

現在までに教師会議を通じて、以下の業務を行ってきた。

- (1) 6校共通テストの問題作成と実施、結果分析(86年～/年2回)
- (2) シラバスの作成(86年)
- (3) シラバス改訂版作成(87年)
- (4) RS作文コンテスト入賞者及び教育省試験成績優秀者表彰式への参加(88年～)
- (5) 教科書の作成(88年)
- (6) シラバス解説書の作成(89年)
- (7) 「れんしゅうノート」1～4作成(90、91年)

上記は主要な業務・作業であるが、これらを通しての意見交換にも、基本的見解を統一していく上で大きな意味があった。会議開催回数の多さに、一時は1校より1名の出席という形を試みたこともあるが、方向決定の時期でもあり、共通理解をはかる必要性から、結局全員出席の現在の形で落ち着いた。

3. 教材等の作成

1) 作成背景

RSに初めて日本語が導入された時、教材類はまったく備えられておらず、教科書の選定等も要請書に書かれていた。また、ここ数年こそ、外国語としての日本語教育が脚光を浴びようになり、内外で教材教具も数多く出されるようになったが、当時は種類も少なく、マレーシアにおいては入手が困難であること、また入手できるにしてもほとんどが日本で生活する成人学生向けであることなどにより、まだ年齢の低いRSの生徒たちにそのまま使えるものはまったくない状態であった。

(この状況はここ数年変わってきて、大都市の日本資本のデパートへ行けば、かなりのものが手にできるようになった。しかし、輸入されている教科書は極めて高価であるし、また、低年齢層向けがないことは以前と同様である。)

2) シラバス

(1) 経緯

1986年 4月 教育省、日本大使館、JO CV事務所より、隊員に対してシラバスの整備の要請が出され、隊員は当時教室で使用していた教科書「日本語初歩」(国際交流基金)を基準にこれを作成した。

5月 学校の実情にあったシラバスの作成が再度求められ、シラバス作成小委員会が組織された。(委員長: マラヤ大学龍田俊夫専門家、委員: マラヤ大学・マラ工科大学・JO CV) そのため上記のシラバスは廃案となった。

9月 基本構文を中心はかなり学習内容を制限した新シラバスが完成し、教育省に出された。また、同年8月の3学期開始と同時に新シラバスに添った授業を開始。

87年 教育省よりSRP、SPM用のシラバスが必要との要請が出ると共に、正式なシラバスは省内のカリキュラム中央委員会及び教育計画委員会が作成、認定することとなるが、最低でも3年を要するとの説明があった。

12月 新シラバスの改訂版を作成。

(2) 新シラバスの内容を制限した理由

- ・RSでの5年間300時間の授業は、実質的には集中コースの150時間程度である。
- ・マラヤ大学留学予備教育課程に進学する学生に望まれることは、初級レベルの知識を一通り知っているということより、精選した基礎をしっかりと身につけ、応用できる能力をもっていることである。つまり、「既習の文型・単語を使って自分の言いたいことを表現できる」能力を身につけさせることが到達目標であった。
- ・特に1～3年生の頃は、単に知識を詰め込むことよりも日本語を受け入れる土台を作ること、日本・日本文化・日本語に親しみを持たせることを重視した。

3) 教科書「にほんご こんにちは」

(1) 経緯

1986年 11月 着手。

88年 12月 脱稿。

1989年 2月 隊員代表から原稿が教育省学校局局长に手渡される。

5月 教科書 2000部完成。

(2) 作成に当たっての留意点

- ・読む・書く・聞く・話すの4技能を等しく重視した。
- ・基本的には直接法を用いて教えるものとし、マレー語による文法解説などは排除した。
- ・会話文を主材料とし、文法項目は「基本文」としてまとめた。
- ・生徒の年齢・興味を考慮し、挿絵を多くした。
- ・場面設定や語彙はマレーシアのRSで学ぶ生徒の生活に密着したものを多く採用した。
- ・付録として、歌やゲームなど日本の文化紹介的なものも入れた。
- ・必修語彙を制限したので、巻末に参考語彙を絵辞典の形で載せた。

(3) 教育省は、教科書作成を依頼した時点をもって、「にほんご こんにちは」は同省認定の国定教科書であるとしている。

(4) 1992年末からの新学年の生徒に販売する分から増刷版となる予定で、91年10月現在、その際の活字体変更（明朝体から教科書体へ）やミスの修正などの作業が進められている。内容の修正加筆の必要性も出てきているが、これについては今後の課題となろう。

4) シラバス解説書

(1) 経緯

1988年 11月 着手。

89年 3月 完成。

(2) 作成した理由

1987年12月にシラバスの改訂版が、88年11月に教科書「にほんご こんにちは」の草稿が完成したが、これが各種の制限を加えたものであったことなどから、作成作業とその話し合いに加わらなかった後任の日本語教師たちにも、その意図を理解してもらうことを目的として作成。

5) 補助教材「れんしゅうノート」

(1) 経緯

1987年 4月 教科書の掲載事項の一部としての「練習問題」作成に着手。

教科書作りと平行して作業が進められた。

10月 第一次草案完成。各校、独自に試用を開始。

その後、教科書には、練習問題を掲載せず、これを別冊立てとすることになった。

88年 11月 学年ごとの4分冊にすることなどが決まり、シラバス解説書の作成と同時進行の形で、第一次草案の見直しに着手。

90年 5月 「れんしゅうノート 1」 2000部完成。

8月 「れんしゅうノート 2」 2000部完成。

91年 3月 「れんしゅうノート 3」 2000部完成。

10月 「れんしゅうノート 4」 2000部完成。

(2) 作成した理由

教育内容の定着を図るためには補助教材が必要であるが、市販のものにはシラバスにあったものがない。そのため、それぞれの教師が独自に教材を作成していた。しかし、そのみでは不十分な場合もあり、全体の共通教材の必要性が認識された。

(3) 作成にあたっての留意点

- ・教科書「にほんご こんにちは」に沿った内容にする。
- ・基礎練習を重視する。
- ・教室では十分に行えない書く練習を多くする。
- ・各課の新出語彙、新出文法事項を全て網羅する。
- ・直接法を意識し、さらには生徒に興味をもたせるために絵を多くする。
- ・既習事項を復習しながら、基本から応用へと学習できるよう配慮する。

6) 共通テスト

(1) 経緯

1986年 4月 教師会議において実施を決定。

7月 第一回共通テスト実施。(1年生を除き各学年2回ずつ実施。)

90年 各学年1回の実施とする。

(2) 共通テストとは、各校で実施される定期テストとは別にRS全体で同時に行う「RSのための日本語試験」の日本語名である。

(3) 実施の目的

- ① 各校の学習進度をそろえる。
- ② 生徒に目標を与え、学習の動機付けとする。
- ③ 生徒の到達度をはかり、その結果を含む日本語教育の現状を、学校、教育省に報告する。
- ④ SRP・SPMにつないでいくため、シラバス・教科書の改善のための資料、また個々の教師のための反省材料を得る。

(4) この試験は作成・準備等は隊員によって行われているが、実施に関しては省が各校に指示を出しており結果も公式化されている。

(5) 項目(3)の③、④の目的のために、この試験の結果は細かくデータ処理されている。しかし、教師には膨大な作業が強いられるにもかかわらず、現在その結果を十分に活用しているとは言えない。テスト問題等もようやく資料が整いつつあり、その活用方法を考える時期に来ている。

4. その他

1) 作文コンテスト

(1) 経緯

RS 6校で日本語を履修している生徒の日本語学習を奨励するため、RS日本語教師が大使館に依頼し、日本語弁論大会（1985年より開始）の一部として1987年より始められた。現在も当コンテストについては大使館の支援がある。

開催理由として下記の項目があげられる。

- ・作文能力を計る。
- ・他校生徒の作品または弁論大会を通じ、刺激を与える。

(2) 主催者

国際交流基金（1987年～89年は日本大使館主催）

マレーシア日本人商工会議所

クアラルンプール日本人会

（社）日本在外企業協会

(3) 時期

毎年7月上旬～下旬にかけて行われ、表彰式は9月上旬に行われる。

(4) テーマ

自由： 例・・・「わたしのゆめ」 「わたしの友だち」 「わたしの好きな人」
「わたしの一日」 「わたしの休み」 「わたしの家族」
「マレーシア」 「日本」等

(5) 応募方法

400字詰原稿用紙（2～4枚）を使用。各校毎に上位5編を選定し、国際交流基金クアラルンプール事務所に提出する。

(6) 審査・審査基準

主催4機関関係者により審査を行う。

内容・・・論旨の一貫性、伝達性、内容（40%）

叙述・・・意味の曖昧、冗長な文、接続語の不適當、主述の対応、語句の不当応、
修飾語（40%）

表記・・・誤字、正書法（10%）

表現意欲（10%）等

(7) 表彰

優秀作品10編が日本語弁論大会入賞者と共に表彰され、賞状、賞品が授与される。

金賞2名

銀賞2名

銅賞2名

努力賞4名

なお、表彰式には「入賞作文集」が配布される。

(8) 参加の仕方

学校によって異なる。

- ・希望者のみに書かせる。
- ・月例テストとして扱い、全員対象として書かせる。
- ・教師より指名する。等

なお、9月に行われる表彰式には受賞者と数名の生徒が各校より出席する。

2) 教育省試験

1987年1月の教育省・RS校長・人事院の会議において、試験の実施が合意された。更に、3月の日本語教育会議（教育省・マラヤ大学・人事院・日本大使館・JOCV）では、日本側の提案を受け入れる形で下記のことが確認された。

- (1) 将来日本語をSRP・SPMの全国統一試験に組み込むことを目標とするが、当試験はSRPの前段階と位置付ける。
- (2) 目的は日本語の達成状況の把握及び学習者の意欲高揚である。
- (3) 4年終了時に履修者全員を対象に行う。範囲はシラバス内とする。
- (4) 結果に対しては認定証を発行する。
- (5) 日本留学の奨学生選抜の判断材料のひとつとして扱う。
- (6) 問題の作成は作成委員会を設置してこれに当たる。 → その後教育省がマラヤ大学言語センターに委託することとなった。

87年10月に第1回試験を実施。以後毎年SRP終了直後に行われている。

教育省試験の各校における最優秀者は、教育省試験優秀者表彰式にて日本大使館より顕彰される。これは日本語を学習する生徒の励みとすることを目的としており、第1回の表彰式は88年に行われた。JICA（JOCV）事務所は表彰状及び副賞を準備している。

87、88年分については大使館の日本語弁論大会の場を借りる形で表彰式が行われた。90年に弁論大会の主催者が大使館から国際交流基金に移ってからはこれとは別に行われている。90年に表彰された89年実施分より、表彰式は教育省が主催している。なお、91年には、日本語教育の広報の意味も持たせるとのことで、日本語のコースを持たない他の全RSからも校長及び5年生各10名を招待し実施した。また、教育省も各校の1位から5位までの合計30名の優秀者を表彰する形で行われた。

この試験は徐々に定着してきているといえるが、いまだに教育省とマラヤ大学の間の連絡調整がスムーズでなく、問題の作成・配布、認定証の発行などに改善点を残している。

VI. 問題点と今後の課題

VI. 問題点と今後の課題

1984年に国家計画として導入された当プロジェクトは7年を経過して、一応の形ができた。しかし、RSの第二外国語としての日本語教育には、まだ数多くの実施上の問題点がある。

1. 問題点

(1) 目的・生徒の進路

当コースは東方政策に従い、日本留学を容易にする目的で始まった。現在も大目的としてこれは変わっていない。しかし、毎年第二外国語として日本語を選択する300人前後の生徒のうち、日本留学を志すようになる者は極めて少数であり、他の生徒に対しては「教養としての日本語」を教えるという二本立ての目的となっている。

教育省、人事院とも、RSからAAJへ進み日本へ留学する者を多く出すことを目指している。

しかし、現実にはRSからAAJへのリンケージは確立されていない。実際の進学者数は次のとおりである。

89年 29名 (定員100名)

90年 8名 (定員100名)

91年 12名 (定員120名)

これについて1991年5月、人事院、教育省、RS校長、AAJが合同会議を開催して対策を協議している。

この原因としては次のようなことが考えられる。

- ① 進路の選択は基本的に生徒本人の志願によるが、生徒、保護者に欧米志向が強いこと。特にRSの場合、保護者自身が欧米留学経験者である割合が高く、日本留学を目指す志願者の総数が低いこと。
- ② AAJの入学者選抜にはSPMの成績、特に理数科の成績が重視され、日本語履修の有無は参考項目として勘案されるに過ぎないこと。
- ③ 東方政策に基づく日本留学であり、ブミプトラ政策のため、ブミプトラ以外の生徒にはこのコースは閉ざされたものとなっていること。
- ④ 生徒、保護者への啓蒙活動が十分でなかったこと。(これは現在、教育省、AAJの努力で改善されつつある。)

JOCVとしては、AAJにRS生徒のための特別入学枠を設けることなどの提案を行ってきたが、日本留学の成果を上げるためには特に優秀な学生を採用する必要があるとして、現在UMにはその意志はない。

なお、AAJ以外に日本留学を望む者が取り得るコースはいくつか考えられるものの、自費留学以外の門は極めて狭い。また、留学情報も十分とは言えない。

(2) SRP・SPM

SRP・SPMは学習成果を公式に認定するもので、その結果によって、生徒の進路は大きく左右される。その観点から学校教育の一教科としての日本語を考える時、このSRP・SPMに日本語が採用されていないことは大きな欠点といわざるを得ない。

教育省は当初、4年生でSRPを実施し、その試験に合格した生徒には5年生の時点で日本語をSPMの選択受験科目にしたいという意向を持っていた。(85年)

87年、SRPの前段階として教育省試験を実施(UMが問題作成、教育省が実施)することとなった。この時点では、90年にSRPに、92年にSPMに採用する予定であったが、現在もまだ実施に至っていない。

教育省が前向きの姿勢を示しつつも公的試験科目として取れ上げられず今日に至っている背景として、次の点が考えられる。

- ・シラバスの検討がなされていない。または検討できる日本語専門家が教育省にいないこと。
- ・RS6校のみで実施されており、一部の生徒しかこれを学習できないこと。
- ・SRP8科目(必須5科目、選択3科目)の中にはマレーシア語、英語が必須として含まれており、日本語等第二外国語を採用した場合、語学が増え、ほかの基礎教科を選択する幅が小さくなること。
- ・試験の結果を認定する機関及び方法が確立していない。(英語の場合、イギリスのGCSE試験のOレベルに相当すると認められている。)
- ・現行シラバスの内容が、正式な試験科目として認められているほかの第二外国語に比べてレベルが低いと考えられていること。
- ・レベル評価のひとつとして実施されている教育省試験の結果が良くないこと。

JOCVとしては同じく第二外国語であるアラビア語、フランス語と横並びの形で、4年生で実施するSRPとして取り上げられることを目指してきたが、1991年の新カリキュラム導入にともない、92年よりフランス語がSRPからはずされる予定となった。横並びということを考えると日本語のSRPへの登用はまたひとつ遠のいたように思える。

(3) 専門家の不在

UMへのリンケージ、SRP・SPMへの登用などを考えていく時、プロジェクトを統括してゆくべき教育省内に、マレーシアの日本語教育全体を見渡す立場の日本語の専門家のいないことがひとつの障害となっている。現地教師の養成も始まったばかりの現在だが、将来的にはこのポストにつくうる現地行政官の存在が望まれる。

(4) 現地教師の不在

現在RSの日本語教師はすべて日本から派遣されるJOCV隊員である。このことにより、以下の問題が起こる。

- ・隊員の協力活動期間は2年が原則であるが、これは教育という長期的プロジェクトを行う場合には短過ぎるといわざるを得ない。また、その交代が学年途中となることが多い。このため、教師

が変わる度に教室内のルールが変わるなど、計画的・継続的指導ができず、生徒に戸惑いを与えたり、しつめに支障をきたしたりする。

- ・教師として派遣される隊員がかならずしも日本語教師としての経験が十分だとは言えず、活動の初期は試行錯誤を重ねることになる。しかし、RSにおいて経験を積み、ようやく当所にふさわしい方法を体得した頃任期終了、帰国となり、後任はまたゼロに近いところから始めることになってしまう。したがって、ノウハウの蓄積ができていかない。
- ・学校当局とのコミュニケーションが十分でない。
- ・言葉や習慣に関する知識が不十分なため、生徒指導が効果的に行えない。

これに関しては幸いにも現地教師養成プログラムが始動し、1994年4月、第一期生が5年間の留学を終えて、帰国する予定である。この中から何名のRS教師が誕生するかは不明だが、第二、第三期生もすでに渡日しており、94年以降次々と帰国して来るものと期待される。現地教師が誕生した時点で、教師がJOCV隊員であるが故の前述の問題の多くは解決されるであろう。それ以外にも

- ・日本語教師が学内のシステムに自然に組み込まれ、学校当局との連絡が良好になる。
- ・教材研究に「学習者の目」が取り入れられる。

等の利点が考えられる。

(5) 入学システム

学校によっては、かなりの生徒が3か月から半年も遅れて入学してくる。これはRSへの進学者選抜方法に起因するものであり、現行システム上やむを得ないことであるが、語学教育において非常に重要な導入期に在学していない生徒が出ることを意味する。教師はその後補習等に時間と労力を費やしているが、それでも遅れを取り戻せない生徒が大量に出てしまう。

(6) クラスの規模

1クラスの生徒数が語学クラスとしては多過ぎるところが多い。これは全校生徒数と外国語教師の人数比率、生徒に対する語学選択のさせ方などによることで、学校教育としては仕方のないことかも知れないが、少なくともほかの外国語クラスより日本語クラスの方が人数が多いというアンバランスは解消しなければならない。

(7) 学校の支援体制

これまで何年かかかり、関係者の理解は進んできたが、人事院・教育省等の当プロジェクトに関する意向と現場である学校当局との意識との間にはまだ開きがある。学校の運営に関して校長裁量の部分が大きいマレーシアでは、このことは学校の支援体制、生徒の取り組み方等に大きく影響している。

2. 今後に向けて

1991年現在、EPUの強い指示により、RSの日本語は大きく動いている。念願であった現地教師養成プログラムが既に動きだし、日本語教育校の増加も具体化している現在、JOCVの日本語教師隊員がしておかねばならないこととして以下のことが考えられる。

- ・国家試験（SRP・SPM）への日本語登用を視野に入れたシステム改善の提言。
- ・生徒の進路、特にUM予備教育課程とのリンケージ確立に向けた働きかけ。
- ・現地教師への引き継ぎの方法策定。
- ・教育省、大使館、UMなど関係機関との連絡ルートの確立とその強化。
- ・マレーシアのRSの生徒たちに適した教材、教具の研究、開発。
- ・より効果的な教授法の研究。
- ・授業の受け持ち方、引き継ぎ方法など校内のシステムの研究、改善。
- ・共通テストの活用。

RSの日本語教育にはこれまで47人の隊員が関わり、今後もまだJOCVの派遣が続くことが予想される。語学教育である以上、システムが確立され、現地教師の人材が十分になってもネイティブ教師の必要性がなくなることはないだろう。しかし、システム確立・現地教師の育成が果たされれば、我々の協力活動は一応の目標が達成され、収束の方向へ向かうことになる。教育の主体はマレーシア側現地教師に引き渡す形での、JOCVとしての協力活動収束を今後の目標としたい。

Ⅶ. 隊員エピソード

VII 隊員エピソード

1 .

S58/3次隊 小野 たかみ (KMKK)

クアラルンプールから初めてマレーカレッジ (KMKK) に着いた日、教頭から「じゃあ明日から始めてくれ」と言われて、思わず「明日？」と聞きかえしてしまった。だってまだ何もないのだ。職員室にも私の机すらなく、授業に出ていく先生がいると、その授業の間だけいすを借りて座り、帰ってくればにこにこ丁寧にお礼を言って、又違う先生で授業のある人は、と捜すという状況。教科書は自分が使おうと思って持って来た日本語初歩1冊のみ。とにかく、日本についての楽しい話などしながらひらがなを教え始めた。生徒用に日本に注文した教科書が着いたのは、それから何か月もたってからだった。やれやれと喜んで、生徒たち1人1人にそれを配って、その嬉しそうな顔を見たのも束の間。皆から10リンギットずつ徴収しなければならない事を宣言すると、とたんに高いという驚きの声と、がっかりする様な声に教室はどよめいた。その後、教室に行くたびにまだ払っていない子の名を呼んで「払ってね」と呼びかけたが、1か月位たった時、ついに払っていない子は、クラスに3、4人となった。私は考えた。10リンギットといえかなりの金額だ。我々の信じられない様な金持ちの子弟も多いが、貧しい家から、成績優秀のため選ばれて入って来た子もこの学校にはいる。小遣いにつかってしまっただけではなく、本当に払えない子もいるのでは、と。同僚の先生方に聞いてみると確かにそうだ、と言って子供1人1人の親元の事など書いてある資料があると教えてくれた。事務室でそれを見せてもらってドキンとした。年収900リンギットのおじさんの家にひきとられているという生徒がいたのだ。払える訳がない。同じ様な状況の子が各クラスに1人2人位ずついた。何回も何回も教室でまだ払ってないと言って名を呼ばれた時、どんな気持ちで聞いていただろう。私は校長室へ行って、どうしても教科書代を支払えない子がいるのだけれど、何とか学校の方からお金を出してもらえないだろうかと校長に相談した。学校の教材用経費で出してくれるという事になった。次の授業の時、又いつもの様に名前を呼んで前へ出て来る様にと言うと、私に未納の事でおこられるのかと思ってか、ぐずぐずと少年達は私のそばに来た。私は、事情のある子だけに、幼い心のプライドが傷つかねば良いかと心配しつつ、他の友達に聞こえない様に小さい声で、「教科書代払えないだろう？校長先生に、君の分は校費で出してくださる様にたのんだから」とつけた。その瞬間、パッと子供の顔は明るくなった。「それでいい？」と念を押すと、さっきの暗い瞳と違って、長いまつげのぱっちりお目々は大きく黙ってうなずいた。それからだいふたって、片方の前がぱっくり口のあいた黒皮靴をパクパクいわせながら、元気に歩いている彼を見かけた。

2 .

S58/3次隊 高田 美佐子 (KTK)

84年1月、レジデンシャルスクール初代日本語教師として、KTKに赴任した。『Look East 政策の一環』とのことだったが、教育省・受入校とも具体的な方針が決まっていないままのスタートだ

った。受入校側としても、かなり戸惑っていたようだ。赴任第1日目、校長・教頭に「ピアノは弾けますか。今、音楽の教師が足りないのです、音楽と日本語を教えてください。」と言われたこともなつかしい。

初年度はForm1に週3コマ×2クラス、Form4に週6コマ、他に生徒・教職員向けのConversationクラスを行ったが、殆どはAfternoon class。翌年は、クラス数ほぼ倍となったが、高学年の生徒には宿題・テスト等も、SPM教科の負担にならないようにとの指示があった。各受入校でも、『日本語』の扱いはそれぞれ異なり、共通シラバスの作成など考えられない時期だった。

レジデンシャルスクールで日本語を学んでも、その後の受入体制は整っていなかったが、それでも興味を示し、日本語を選択した生徒たちに、その興味をいかに保ち続けてもらうか…。これが私の2年間であった気がしている。生徒たちは、日本・日本人・日本語にとっても興味を示し、よく勉強した。しかし、VTR教材等も整備されていない頃のこと、その興味を失わないでいてもらうには、教室と日本とは非常に遠かった。が、幸い、マレーシア初の中高校レベルでの日本語教育実施校であること、KL（クアラルンプール）からあまり離れていないこと等から、日本の各団体からの訪問が多く、その度に『日本人』の方々には活きた教材になっていただいた。

日本からの教材の購入も生徒にとって負担で、教育省やJOCV、大使館に「教科書買ってください。」とお願いして回ったが、今では立派なオリジナル教科書が使われている。シラバス・教材・テスト・進路等の整備、そのうえ教師養成…。プログラム開始時とは隔世の感がある。教師にとってはその時期、時期で、異なった問題・悩みがあるのだろうが。レジデンシャルスクール出身の留学生が日本で学び始めた今、これからもこのプログラムが発展することを祈っている。

3. 「子ども達をよろしく！」

S63/1次隊 小林 富士子(SMSAH)

我々が赴任したのは、教科書作成の最終段階から「れんしゅうノート1・2」の完成期である。

我々日本語隊員は、チーム派遣であると、心底感じたのは、応募時の要請文からでも、会議からでもない。赴任5か月目に迎えた新1年生の授業の中からだった。

当時、日本語の授業は5年生まで履修することになっていた。学年が進むにつれ、生徒間の習熟の差が広がり、意欲を欠いた生徒も見うけられる。これらは仕方のないことではあるが教える立場からすると、最も苦しい事だ。

ところが、目の前にいる1年生はどうだろうか。教室の31人の目は私を見つめる。私がうっかり口にする日本語までも拾う。毎回の授業終了8分前、その日の学習内容をノートに書かせていた。机上巡視でノートを調べながらスタンプを押す。その時に発するなにげない私の「どれどれ」に、クラス中で「どれどれ」——ありゃ、まずい。

この1年時の意欲を5年生まで維持させたい。前向きでない生徒にはしたくない。しかし、自分の任期は短く、途中で他の隊員に任せることになる。だからこそ、5年間（現在は4年間）を見通したカリキュラムを組まなければならない。私の前の3人の隊員も、同じ思いを抱いたに違いない。つまり、我々の作るチームは同時期の隊員とのチームであり、引き継ぐ隊員とのチームでもある。

教科書、練習ノートは、他校との関わりの上での最低ラインであるが、実は、一校内の教育課程の上にも最低限の流れを作っている。だからといって、教科書通りに教えよということではない。隊員個々の工夫による魅力的な授業をつくっていった欲しい。授業の形態は無限だ。そして、教科書は、隊員から隊員へのバトンであり、その使い方も無限だ。

1990年12月。国際交流基金主催の、日本語能力試験の引率者として、シンガポールの日本人学校へ行ったときのことである。生徒が教室内で必死に問題にむかっている間、私はフラフラと校内を見学。なるほど、日本人学校というだけあって、校舎全体に日本の懐かしい雰囲気が漂っている、と、突然、耳に心地よく、懐かしい響きが…。まちがいない。竹刀の音である。

シンガポール剣道クラブのMr.Limの連絡先をしっかりとJICA手帳に記し、「必ずこちらから連絡します。ぜひ一度、私の学校へ来て、剣道のデモンストレーションをしてください。」と、お願いしたのが、その日、12月9日だった。

なんとしても、私の学校「スコラ・トゥン・ファティマ」に来てほしかった。日本のスポーツといえば、柔道と相撲ぐらいしか知らない生徒たちに、「剣道」というものを見せてあげたかった。しかし、なかなかいい時期を見つけられない。このまいつまでも延ばし延ばしにしていると、この企画は流れてしまうかもしれない、それだけは、どうしても避けたかった。私の中で欲求不満がたまってきた。「剣道、剣道、剣道したい。」何のことはない。「日本の文化紹介」などというものにかこつけて、結局は自分が剣道をやりたかっただけなのである。そんな自分に途中から気が付いてはいたが、とにかく、この企画を成功させようと、かなり意気込んでいたのも事実である。

1月20日、日曜日。シンガポール剣道クラブのメンバー6人がついにスコラ・トゥン・ファティマにやって来た。「生徒たちにも竹刀にさわらせたい。」というこちら側の希望をかなえるために、いくつかの予備の防具を持って。約1時間のデモンストレーションのあと、ジャージ姿に防具一式をつけた生徒が、剣道クラブの人々に教えられるままに、彼らになぐりかかる。ふだん、ほとんど運動らしい運動をしていない彼女たちにとって、奇声を発しながら、今初めてみたスポーツに挑むというのは、かなりの勇気が必要だったに違いない。が、数人の有志たちは本当に元気よく、思いっきり竹刀を振りまわしてくれた。

最後に、スコラ・トゥン・ファティマの生徒たちが、学年ごとに日本の歌を歌ってお礼の言葉とした。

——— 生徒たちの感想から ———

- ・体育館に入ったとき、何が始まるのかと思ってドキドキした。
- ・ものすごい声を出すので驚いた。
- ・とてもおもしろかったが、こわかった。
- ・おもしろいスポーツだと思ったが、私はやりたいとは思わない。人をたたくのは嫌だし、たたかれたら痛そうだし…。
- ・最初はおもしろいと思って見ていたが、そのうちだんだん飽きてきた。動きに変化がないし、ゆっくりだし…。

なんて正直な生徒たち。あらためて、「やっぱり剣道は、日本のスポーツなんだわ。」と思った次第である。また、「今まで知ることのなかった日本の文化に触れることができ、よい勉強になった。」という冷静な感想を残した1年生もいた。「そうなんだ。元々の目的はそれだったんだ。」と、ふと我に返る一日本語教師。

気持ちばかりが先走り、頭から湯気をたてた状態でひとつの行事を終えたあと、はりきりすぎて、次の日、熱を出して寝こんだという、全く頭の痛い日本語教師のお話でした。

5.

H1/1次隊 平賀 正俊 (STAR)

全寮制中等学校のひとつ、スコラ・トゥアंक・アブドゥル・ラーマン校 (STAR) は、クアラルンプール、ペナン、ジョホールバルに次ぐ第4番目の都市、イポー市にある。人口の80%が中国人系で占められており、マレーシアの中でも、特に異質の文化を持った街であると思われる。この街にあるSTAR校は、マレー人系の学校で、学生比はマレー人が95%以上、中国人系とインド人系は1クラスに2~3人いる程度である。他の全寮制中等学校と比べると、STAR校の学生は、カンボン(村)出身の子供達が多いと言われている。その為かどうかわからないが、寮生活になじめず、低学年の1年生、2年生の間に学校をやめ、親元に帰る学生も少なからずいる。

日本語の授業は、教科書だけでなく、歌やゲーム、おりがみなどを入れたりして、できるだけ興味を失わせないようにしなければいけないのが、外国人先生の大変なところである。最初に教える歌は決まって「さくら、さくら」である。これは学生の方から歌いたいと言ってくる歌であるが、その他の童謡や唱歌は人気がなく、あまり喜んでは歌わないのである。そこで先生は、「どんな歌が歌いたいのですか。」ときくと、「先生、ガバン!」と答えるのである。『ガバン?』これは、今マレーシアで放映されている日本のテレビアニメーションなのである。この他に、『コメットさん』、『ガッチャマン』などなど…。日本人先生は、童謡だけでなく、こんな歌もレパートリーに入れとかなければいけないのである。

習字などは、授業中にはちょっと時間がないので、日本語クラブの時にこなしたりしている。日本語クラブは週1回、日本語の好きな学生が集まって、何か課外活動を行うものである。クラブでは、普段授業中にできないような習字の他に、社会見学のために日本企業の工場見学やマレーシアの大学の日本語の授業見学に行ったりしている。そして、さらに日本や日本語に対して興味をもってくれればと思っている。また、日本語の課目のある他の全寮制中等学校を訪問して、お互いの交流を深めたりしている。私の学校は男子校なので、女子校への訪問はとてうれしいようで、これを期待して、日本語クラブに入ってくる学生も大勢いる。中には、すっかり文通している学生もいるんだそうである。日本人先生は、学生のためなら、恋のキュービットにもなっているのだ。

6.

H2/1次隊 藪下 由美子 (STAR)

マレーシアの学校には、授業と授業の間に休み時間がありません。はじめてこれを知った時は、トイレに行きたくなったりしたらどうするのだろうと、とても疑問に思いました。

授業は1コマ40分で、7時半に始まって、10時50分まで5コマぶっ続けで勉強します。そしてやっと20分の休み時間があり、束の間の休みの後は、また4コマ授業があります。休み時間がないと、先生も大変で、例えば、3コマ連続で授業がある時は、学校の中を、あっちこっち走り回らなければなりません。しかし、気が付くと、走り回っているのは私だけで、他の先生方は、授業が連続してあっても落ち着いたものです。マレーシアでは全てがのんびりしていますが、人の歩くのもゆっくりで、走り回っている人など、めったに見ません。生徒の教室移動も、とてもゆっくりなので、実

際の授業は30分になってしまうこともあります。

マレーシアの学校に赴任して、生徒が、授業中にトイレに行ったり、他の先生に会いに行ったり、何か係の仕事をしに行ったりするのも、はじめはとても変に思い、授業中なのに、そういうことに許可を与えていいものか、日本式に考えて、戸惑ったものです。中には、授業をうけたくないので、トイレに行ってなかなか帰って来ない者、毎時間のようにトイレに行かせてくれと、言ってくる者、小テストをしようとする、トイレに行きたいと言う者もいます。生理的欲求なので、許可しないわけにはいきませんが、こちらが言葉のあまりわからない外国人教師なので、甘く見られているような雰囲気もあり、生徒指導をきちんとできる教師の立場確立の必要性は、どこの国でも同じなのだなあと思いました。はっきりした動機を持たない生徒の場合は特に、躰は重要な問題で、教室内をうまくコントロールして、勉強する雰囲気をつくることの大切さを痛感しています。

卷 末 資 料

1. シラバス
2. 教科書
3. れんしゅうノート 1～4
4. 教師用マニュアル
5. 各校保有教材リスト
6. 現行カリキュラム

資料

以下の資料は、全体を収録することは大部となり不可能であるので、1～5については内容見本としてその一部をここに掲載する。なお、現物はJICAオフィスに備えてあるので、必要な方はそちらをご参照頂きたい。

- | | | |
|---|-----------------|---------------|
| 1 | シラバス日本語版 | (目次、P.2、P.3) |
| 2 | 教科書「にほんご こんにちは」 | (目次、第1課、第14課) |
| 3 | れんしゅうノート 1 | (P.7) |
| | れんしゅうノート 4 | (P.18、P.54) |
| 4 | シラバス解説書 | (P.1、P.2) |
| 5 | 教材リスト | (SAS分) |
| 6 | 現行カリキュラム | |

目 次

凡 例

I. シラバスの基本方針	
II. 対象と学習時間	
III. 目 的	
IV. 各学年の目標	
V. 履 修 内 容	
<学習文型>	1. N₁はN₂です..... 2. N₁はN₂へVます..... 3. N₁はN₂をV₁ます..... 4. N₁はN₂へN₃/Vに行きます..... 5. N₁はV₁ます..... 6. Vませんか/Vましょう..... 7. 形 容 詞..... 8. N₁はN₂があります/います..... 9. N₁はN₂にあります/います..... 10. N₁はN₂が好きです..... 11. N₁はN₂ができます/わかります..... 12. Nをください..... 13. NはVています..... 14. NがVます/Vています..... 15. わたしはNがほしいです..... 16. わたしはVたいです..... 17. N₁はN₂がAです/NAです..... 18. NはV₁て、V₂ます..... 19. Vてもいいです..... 20. Vないでください..... 21. NはVたことがあります..... 22. N₁はN₂に/からVます..... 23-1. V(辞)ことはA/NAです..... -2. NはV(辞)ことです..... -3. NはV(辞)ことが好きです..... -4. NはV(辞)ことができます.....
<役に立つ表現>	・ 挨拶..... ・ 教室用語..... ・ その他の役に立つ表現.....
<語 彙>	・ 必修語彙..... ・ 参考語彙.....
<漢 字>	

I. シラバスの基本方針

このシラバスでは、中等教育段階で履修される外国語のひとつの日本語学習という観点から、以下に述べる事項を基本方針とする。

読む・書く・聞く・話すの4つの能力について平均して修得させることを目指す。しかし、中等教育機関での学習効率を考慮した上で、その学習内容を限定する。

- a. 文体・・・広範囲の対話者を想定して丁寧体（です・ます調）を使うこととする。
- b. 表記・・・「ひらがな」「カタカナ」を用い、「漢字」についてはこの段階では提示数を制限する。
 - (1) ひらがな：Form 1で完全に定着させる。
 - (2) カタカナ：Form 1で役割の紹介をし、Form 2で読み書きを定着させる。
 - (3) 漢字：Form 2の後半程度から指導を始める。
- c. 文型・・・日本語初級学習文型のうち特に重要な文型を選び、ここで扱う。
- d. 文法・・・① このシラバスでは日常の基本的な事柄の叙述に主眼を置き、「わたしはコーヒーは飲みません。」「わたしが田中です。」等のように含みのある表現に関わる文法事項は取り上げない。従って、次のような制限をする。
 - ・取り立ての助詞「は」は扱わない。よって、否定の平叙文は提示しない。否定の応答文は基本文で示すとおり省略した形で提示する。
 ② このシラバスでは文脈上省略可能な文の要素の省略も扱う。

II. 目的

1. 基礎的な日本語能力を修得し、次の段階の日本語学習の為の基礎を築く

- a. 日本語の基礎的構造の理解
- b. 簡単な日常会話や事物・人物についての説明を聞いて理解し、また自ら話す能力の修得
- c. ひらがな、カタカナ、及び簡単な漢字を使った日本語の文章を理解し、表記する能力の修得

2. 日本と日本人、日本文化についての知識を得、それらについての理解を深める

III. 対象と学習時間

対 象： 中等教育機関の生徒（Form 1～Form 5・・・13～17才）

学習時間： 年 間 授 業 時 間 約 60時間 (40分 ×週3回×30週)
5年間の総合授業時間 約300時間

(尚、学習者は本シラバスの学習内容を修得する為に最低限、授業時間数と同時間程度の自習が要求されるものである)

IV. 各学年の目標

- | | |
|--------|---|
| Form 1 | <ul style="list-style-type: none"> * 日本語の音声を正しく捉え、発音することができる * 日常生活での挨拶ができる * 教室で使われる言葉と表現が理解できる * ひらがなの読み書きができる * 人物や事物について簡単な説明ができる * 自分の基本的動作を表現できる |
| Form 2 | <ul style="list-style-type: none"> * かたかなの読み書きができる * 一日の生活、行動について説明ができる * 人物や事物について簡単な形容ができる * 人物や事物の存在、位置関係について説明ができる * 勧誘の表現ができる * 嗜好や技能について簡単な説明ができる * 漢字の概念や役割を理解できる |
| Form 3 | <ul style="list-style-type: none"> * 自分の欲求、要求、希望を他者に伝えることができる * 現在進行中の動作の描写ができる * 人物について形容ができる * 気象の説明ができる |
| Form 4 | <ul style="list-style-type: none"> * 物の授受表現ができる * 許可、禁止、経験などの表現ができる |
| Form 5 | <ul style="list-style-type: none"> * 技術、能力、嗜好について表現できる * 動作について詳しく表現できる |

もくじ

	ページ
あいさつなど	2
きょうしつのことば	4
watak-watak	5
ひらがなひょう	6
うた あいうえおの うた	7
だい1か はじめまして ◇ わたしは たなかけんじです	8
うた うみ/かえるの うた	11
だい2か せんせいの じしょ ◇ それは なんですか	12
だい3か ともさんの せんせい ◇ さとうせんせいは すうがくの せんせいです	16
だい4か にちようび ◇ きのは やすみでした	18
だい5か きょうこさん ◇ あした はくぶつかんへ いきます	22
だい6か こんばん ◇ としょかんで べんきょうを します	26
かたかなひょう	29
だい7か かいもの ◇ せっけんを みつつ ください	30
うた ちいさな せかい	33
だい8か スポーツ ◇ いっしゅうかんに にかい テニスを します	34
おりがみ	37
だい9か でんわ ◇ いっしょに えいがを みませんか	38
うた さくら	40
うた もりの くまさん	41
だい10か さくぶん ◇ まいあさ 六じはんに おきます	42
だい11か 日本 ◇ 日本は どんな くにですか	42
だい12か テスト ◇ テストは どうでしたか	50
だい13か アルバム ◇ ならこうえんに しかが います	54
だい14か まちで ◇ ゆうびんきょくは どこに ありますか	58
よみもの 1 「にっき/えはがき」	61
だい15か かぞく ◇ あには スポーツが すきです	62
だい16か きょうしつで ◇ かん字で かいてください	66
うた はるが 来た/小さい あき 見つけた	69
だい17か 今 ◇ 作文を かいています	70
だい18か てんき ◇ かぜが ふいています	74
みんなの いきもの	77
だい19か カメラ ◇ あたらしい カメラが ほしいです	78
うた ドレミの うた	80
きもの/日本の がっき	81
だい20か やすみ ◇ マラッカへ 行きたいです	82
よみもの 2 作文「わたしの ともだち」	86
うた しきの うた	87
だい21か びょうき ◇ あたまが いたいです	88
だい22か きょうと ◇ スキーを して、りょうこうを します	92
うた あかい花 白い花	95
だい23か 学校の 入り口 ◇ 入ってもいいですか	96
日本の 休み	99
だい24か やくそく ◇ おくれないでください	100
ことばの あそび	103
だい25か 外国りょうこう ◇ ひこうきに のったことが ありますか	104
よみもの 3 作文「日本ごの べんきょう」/年がじょう	107
だい26か プレゼント ◇ リナさんに ハンカチを あげます	108
だい27か しゅみ ◇ おかしを 作ることは たのしいです	110
うた こうじょうの つき	113
よみもの 4 みんな話 「おむすび ころりん」	114
ふろく	116

だいいっか

はじめまして

わたしは たなかけんじです

(1)



(2)

けんじ： リナさんは じゅうよんさいですか。

リ ナ： いいえ、わたしは じゅうよんさいではありません。

わたしは じゅうさんさいです。

けんじ： リナさんは いちねんせいですか。

リ ナ： はい、わたしは いちねんせいです。

けんじさんも いちねんせいですか。

けんじ： いいえ、わたしは いちねんせいではありません。

わたしは にねんせいです。

わたしは じゅうよんさいです。

A. おぼえましょう

1. わたしは たなかけんじです。

2. リナさんは じゅうさんさいですか。

はい、わたしは じゅうさんさいです。

いいえ、わたしは じゅうさんさいではありません。

3. ほんださんは にほんじんです。

さとうさんも にほんじんです。

4. わたしは いちねんせいです。

けんじさんも いちねんせいですか。

はい、わたしも いちねんせいです。

いいえ、わたしは いちねんせいではありません。

B. あたらしいことば

わたし	_____	リナ	_____	なまえ	_____
あなた	_____	せんせい	_____	～さい	_____
さとう	_____	せいと	_____	～ねんせい	_____
すずき	_____	マレーシア	_____	～じん	_____
たなか	_____	にほん	_____	(マレーシアじん)	_____
ほんだ	_____	はい	_____	～さん	_____
けんじ	_____	いいえ	_____	(リナさん)	_____

		～ねんせい	～さい
1	いち	いちねんせい	
2	に	にねんせい	
3	さん	さんねんせい	
4	よん／し	よねんせい	
5	ご	ごねんせい	
6	ろく		
7	しち／なな		
8	はち		
9	きゅう／く		
10	じゅう		
11	じゅういち		
12	じゅうに		
13	じゅうさん		じゅうさんさい
14	じゅうよん／じゅうし		じゅうよんさい
15	じゅうご		じゅうごさい
16	じゅうろく		じゅうろくさい
17	じゅうしち／じゅうなな		じゅうななさい
18	じゅうはち		
19	じゅうきゅう／じゅうく		
20	にじゅう		

C. かきましよう

マ	ブ	マ	マ				マ	レ	ー	シ	ア
レ	↓	レ									
シ	ミ	ミ	シ	シ							
ア	ブ	ア	ア								
リ	リ	リ	リ				リ	ナ			
ナ	ナ	ナ	ナ								

だい十四か

まちで

ゆうびんきょくは どこに ありますか



おんなの人： すみません。ゆうびんきょくは どこに ありますか。

け ん じ： あそこに 白い たてものが ありますね。あのたてものの
まえに レストランが あります。ゆうびんきょくは
そのレストランの よこに あります。

おんなの人： ちかいですね。スーパーマーケットも ちかいですか。

け ん じ： はい、ちかいです。スーパーマーケットは あの白い
たてものの 中に あります。

おんなの人： ありがとうございます。

け ん じ： どういたしまして。

A. おぼえましょう

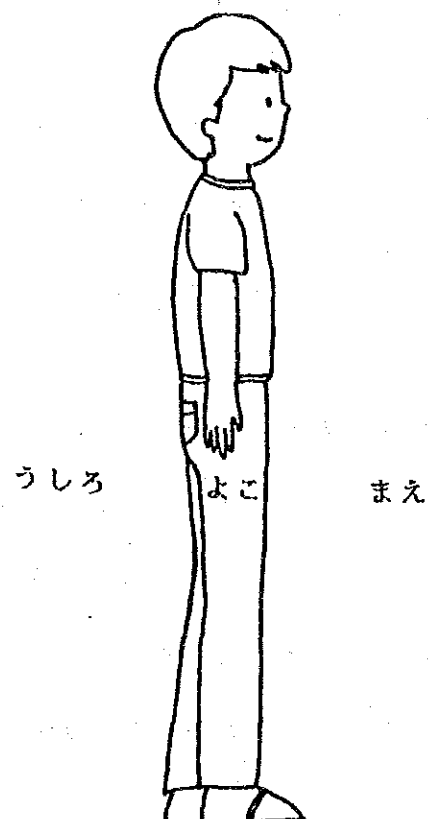
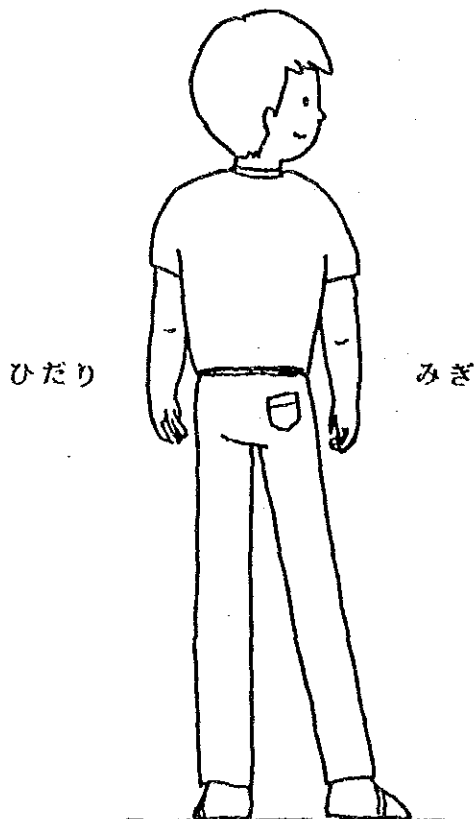
1. けんじさんは えきの まえに います。

2. リナさんの ちは どこに ありますか。

クアラルンプールに あります。

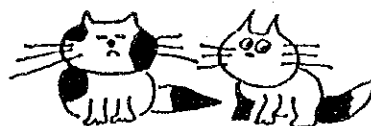
B. あたらしいことば

えき	_____	まえ	_____	タイ	_____
バスでい	_____	うしろ	_____	フィリピン	_____
ホテル	_____	よこ	_____	インドネシア	_____
本だな	_____	そば	_____	インド	_____
ベッド	_____	外	_____	中国	_____
ドア	_____	みぎ	_____	ちかい	_____
でんわ	_____	ひだり	_____	とおい	_____
うし	_____	にし	_____	〜ひき／びき／びき	_____
うま	_____	ひがし	_____		
とら	_____	みなみ	_____		
さる	_____	きた	_____		





?			なんびき	?
1	いっぴき			1
2		にひき		2
3			さんびき	3
4		よんひき		4
5		ごひき		5
6	ろっぴき			6
7		ななひき		7
8	はっぴき			8
9		きゅうひき		9
10	じゅっぴき			10



C. かんじ

よみかた

白 (しろい)

外 (そと)

車 (くるま)

中国 (ちゅうごく)

子 (こ)

かきかた

	かきかた								
	1	2	3	4	5	6	7	8	
白	ノ	く	𠂇	𠂇	白				
外	ノ	夕	夕	外	外				
車	一	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	車		
国	丨	冂	冂	冂	冂	国	国	国	
子	㇇	了	子						

② ことばを えらんでください。

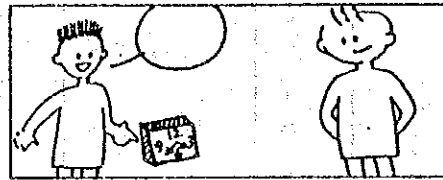
1.

[

 これ

 それ

 あれ
]
 は とけいです。



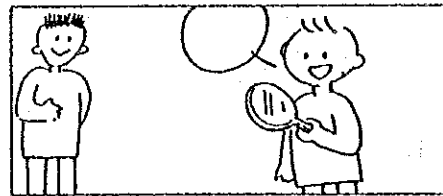
2.

[

 これ

 それ

 あれ
]
 は かがみです。



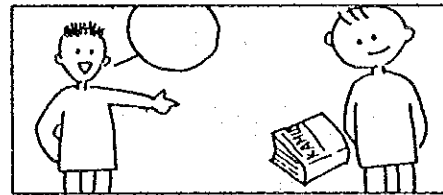
3.

[

 これ

 それ

 あれ
]
 は じしょです。



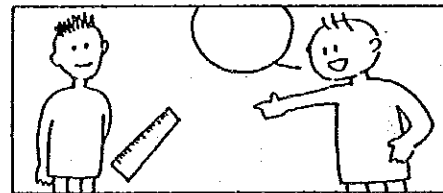
4.

[

 これ

 それ

 あれ
]
 は じょうぎです。



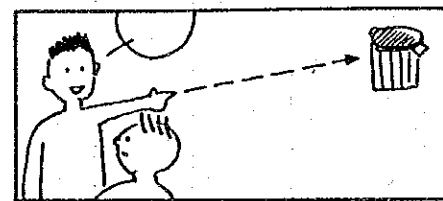
5.

[

 これ

 それ

 あれ
]
 は ごみばこです。



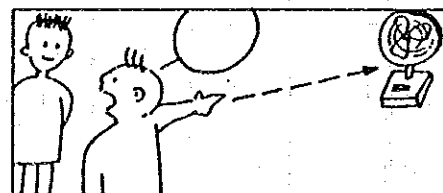
6.

[

 これ

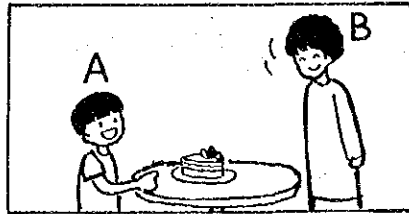
 それ

 あれ
]
 は せんふうきです。



⑦ 文を作ってください。

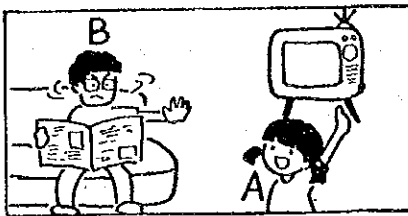
れい：



A : ケーキを たべてもいいですか。

B : はい、どうぞ。

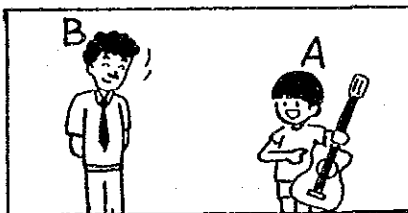
1.



A : _____

B : _____

2.



A : _____

B : _____

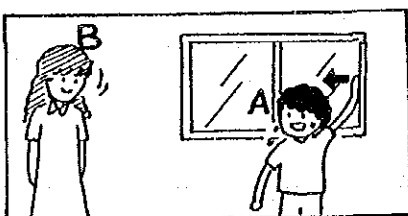
3.



A : _____

B : _____

4.



A : _____

B : _____

3. うた_____ うたうことや おどり_____ おどること_____ とても たのしいです。

4. わたし_____ スポーツ_____ 好きです。本_____ よむこと_____ 好きです。

5. わたし_____ このあいだ 父_____ プレゼント_____ もらいました。

⑧ だい二十七かの かい話を よんで、こたえてください。

1. 友子さんは スペイン語が できますか。

2. 友子さんは 日本の おかしを 作ることが できますか。

3. リナさんは スペイン語で 手がみを かくことが できますか。

4. 友子さんと リナさんは 何の 話を していますか。

⑨ こたえてください。

1. あなたの しゅみは 何ですか。

2. あなたは マレーシアの おどりを おどることが できますか。

3. ドイツ語の うたを きいたことが ありますか。

4. 外国語を ならうことは たのしいですか。

マニュアルーシラバス解説書

1989年03月

「にほんご こんにちは」は 1987年12月に修正されたシラバスに添って、語彙、文型の一部が修正、及び追加されて、1988年11月に完成した（教科書執筆と同時進行で1988年の一年生より使用）。

指導に先立ち、シラバスを熟読把握することを前提としている。当解説書のみで教科書の指導にあたるものではない。

当コースは4年間に渡り300時間が設定されているが、この教科書は様々な理由により内容が限定されている。そのため、各課で扱う文型及び語彙も大きく限定が加えてあるので、ここにその注意点を記す。

全体の注意

1. 生徒の能力、学習環境、及び時間的条件制約等を考慮して、学習内容に様々な制限を加えた。例えば、第17課に於て、「Vています」の文型を導入するが、その中に習慣的現在（eg. 三年間日本語の勉強を しています。）や過去進行形（eg. きのう 雨が 降っていました。）等は含まれていない。しかしながら、これらの制限は、各校共通の教材として最小限度導入するもので、それ以上に広げることを禁止するものではない。
2. 「あいさつなど」、「やくに立つ言いかた」、及び本文中の「_____＊」は表現として覚える。即ち、文法的説明、文型の応用にまで広げるものではない。
eg. いいですね。・・・ いろいろな場面で使わせていいが、そのままの表現でのみ使われる。
3. 「教室のことば」は一年生で、聞いて、指示に従えるように指導する。
4. 本来はカタカナ語は二年生で導入修得されるべきものであるが、「マレーシア」、「アズミ」、「リナ」の三語は、会話の流れ上出てきた言葉で、一年生には個々の言葉を指導して、この三語に限ってのみカタカナ語を覚えさせる。
5. 「A. おぼえましょう（基本文）」の下線は各課の主要文型、及び文法事項を意味する。
eg. このどうぶつえんに ぞうの あかちゃんが います。（第13課）
存在文（人、物）と、助詞の「に」「が」
eg. しずかに べんきょうを してください。（第16課）
副詞の位置（目的語+どうしの位置を崩さないように）
6. とりたての「は」は取り扱わないため、否定文を積極的に使わせない。否定文は応答文の中でのみ使用する（eg. いいえ、しません。）。但し、文型1、文型7、文型23-1・2に於てはこの限りではない。
7. 数字に関する表記は、漢字導入以前（第9課まで）は、算用数字を用いず、すべてひらがな書きとする。漢字導入以降は、漢字で表記し、学習が進んだ段階では算用数字を見せてもよい。
8. 複数の副詞句を含む文中、それらは、原則として「いつ・どこで・だれと」という順序で提示する。但し、それ以外の副詞句に関しては特に順序を問わない。尚、往来動詞の文型に於ては「N

へ Vます」の定型を崩さない。

9. 終助詞「ね」「よ」は様々な用例を示すが、文法的説明はせず、それを含む会話表現の理解にとどめるのみで、定着を図るものではない。
10. 付録（巻末）、課外に目次に項目を上げたもの（歌、読み物等）、及び課中のじゃんけん・クロスワード・早口言葉・日本のお金・日本の城は参考として載せた。

【第1課】

- ☞ 「も＋否定形」は扱わない。
eg. タンさんも イギリス人ではありません。（X）
- ☞ ～じん（人）・・・国籍のみを表す。
eg. 中国人・・・中国国籍の中国人を意味し、中国系のマレーシア人は意味しない。
- ☞ 「おなまえは。」で、相手の名前を聞かせること。応答文は「わたしは ～です。」型で導入するが、最終的には「～です。」（eg. アズミです。）のように自然な型になるように指導することが望ましい。第三者に関しては、「あのひとは だれですか。」で、聞かせる。
- ☞ 会話の中で相手に対して「あなた」という言葉を使わせないように指導する。

【第2課】

- ☞ その場にいる人に関して、「この（その）」と表現するのは失礼にあたるので避ける。
「あのひと」はよい。
- ☞ 準体助詞「の」（eg. わたしのです。）は扱わない。
- ☞ 「どの＋N」は「どの人」のみに用い、物に関しては「どれ」を用いる。但し、「この（その／あの）＋物」はよい。
eg. アズミさんは どの人ですか。
ともこさんの かさは どれですか。
この本は 私の 本です。
- ☞ なに・・・何を、何が
なん・・・何ですか。
何曜日、何で、何＋助数詞（助数詞に準ずるもの）→第2課以降
- ☞ 「これ（それ／あれ）」に関しては現物指示のみとする。

【第3課】

- ☞ 「N₁は N₂で、N₃です」
eg. アズミさんは マレーシア人で、13歳です。
N₃がN₂に完全に包含される場合に注意。
eg. これは 図書館で、建物です。（X）
- ☞ 「N₁は N₂で、N₃は N₄です。」
eg. これは コーヒーで、それは 紅茶です。
N₃とN₄の関係に注意。
eg. これは コーヒーで、あの人は 田中さんです。（X）
- ☞ 「わたしは にほんじんがっこうの せいとです。」→第5課
- ☞ おとこ（おんな）・・・「男（女）の先生」、「男（女）の人」、「男（女）の生徒」などの使い方をする。「男（女）の靴」などのように物との結び付きはさせない。及び単独で「あの男（女）」とはいわせない。

教材リスト

学校名 SAS

A. 教科書				
NO	書名	出版社名	冊数	備考
1	日本語初歩Ⅰ	国際交流基金	1	語学教育研究所
2	日本語初歩Ⅱ	国際交流基金	1	
3	実用日本語Ⅰ ひらがな編	新宿日本語学校	1	
4	かな入門	国際交流基金	1	
5	漢字入門	国際交流基金	1	
6	はつおん入門	国際交流基金	1	
7	Aural Comprehension Practice in Japanese	ジャパンタイムス	1	
8	サバイバル ジャパニーズ	国際教育専修学校	1	
9	Practical Guide to Hiragana Katakana	Popular Book Co.	1	
10	日本語Ⅰ	国際学友会日本語学校	2	
11	Japanese Conversation in 50hrs.	国際協力事業団	1	
12	日本語学習書 よみかた	国際学友会日本語学校	1	
13	はじめましょう にほんご	ワリツ 大学 日本語コース	1	
14	日本語初歩 (改訂版)	国際交流基金	2	
15	A Course in Modern Japanese Vol.1	名古屋大学出版会	1	
16	A Course in Modern Japanese Vol.2	名古屋大学出版会	1	
17	日本語の基礎Ⅰ (漢字かなまじり版)	海外技術者研修協会	1	
18	日本語の基礎Ⅰ (英語版 分冊)	海外技術者研修協会	1	
19	日本語の基礎Ⅱ (漢字かなまじり版)	海外技術者研修協会	1	
20	日本語の基礎Ⅱ (英語版 分冊)	海外技術者研修協会	1	
21	外国学生用 日本語教科書 初級	早稲田大学	1	
22	Japanese for Today あたらしい日本語	学習研究社	1	
23	日本語Ⅰ	国際学友会日本語学校	1	
24	Japanese for Beginners 日本語入門	字研 (Popular Book)	1	
25	An Introduction to Modern Japanese	The Japan Times	1	
26	Basic Japanese --A Review Text	Inter-Univ. Center	1	
27	Pelajaran Bahasa Jepun	Dewan Bahasa d. Pustaka	1	
28	にっぽんご かいわ Infantil [A] No.1	日伯文化連盟	1	
29	にっぽんご かいわ Infantil [A] No.2	日伯文化連盟	1	
30	にっぽんご かいわ Infantil [A] No.4	日伯文化連盟	1	
31	Introduction to Japanese Basic Course	Silver Angel Co. Ltd.	1	
32	Japanese for Children	S. T. A.	1	
33	日本語 (にほんご/にっぽんご)	開拓社	1	
34	日本語表現文型 中級Ⅰ	筑波大学	1	
35	日本語表現文型 中級Ⅱ	筑波大学	1	
36	ひろこさんのたのしいにほんご	凡人社	1	
37	外国人のための助詞	武蔵野書院	1	
38	日本文法わたりかた-1 はとが	くろしお出版	1	
39	nihongo notes 1~7	The Japan Times	各1	
40	わたしのにほんご No.1~No.3	凡人社	各1	
41	ぶんけい	凡人社	1	
42	技術研修のための日本語1	国際協力サートン	2	
43	技術研修のための日本語2	国際協力サートン	2	
44	Intensive Course in Japanese Elementary 1	Japanese Language	1	
45	Intensive Course in Japanese Elementary 2	Japanese Language	1	
46	基本文型	大阪外国語大学	1	
47	BASIC KANJI BOOK	凡人社	1	
48	日本語作文Ⅰ	専門教育出版	1	
49	文化初級日本語Ⅰ	文化外国語専門学校	1	
50	文化初級日本語Ⅱ	文化外国語専門学校	1	
B. 参考書 (問題集を含む)				
NO	書名	出版社名	冊数	備考
1	日本語初歩 応用会話テキスト	北海道大学日本語研究会	1	
2	日本語初歩 文法説明	北海道大学日本語研究会	1	
3	日本語初歩 練習帳	国際交流基金	1	
4	日本語初歩 漢字練習帳1	国際交流基金	1	
5	日本語初歩 漢字練習帳2	国際交流基金	1	

6	日本語初歩 語彙索引 (英語版)	国際交流基金	1	
7	実用日本語 I かな練習帳	新宿日本語学校	1	
8	日本語 I れんしゅうちょう (1)	国際学友会日本語学校	1	
9	日本語 I れんしゅうちょう (2)	国際学友会日本語学校	1	
10	日本語 I 使用の手引	国際学友会日本語学校	1	
11	ひろこさんのたのしいにほんご ひろこ・たけな・みづ 練習帳	凡人社	1	
12	文型練習問題	大阪外国語大学	1	留学生別科
13	文化初級日本語練習問題集 I	文化外国語専門学校	1	
14	文化初級日本語練習問題集 II	文化外国語専門学校	1	
15	日本語学力検定試験問題集 C	早稲田大学	1	語学教育研究所
16	日本語テスト問題集 (文法・語彙編)	凡人社	1	
17	教師用日本語ハンドブック (3) 文法 I	国際交流基金	1	
18	教師用日本語ハンドブック (4) 文法 II	国際交流基金	1	
19	日本語教育指導参考書 (6) 日本語教育の評価法	文化庁	1	
20	〃 (9) 基本語彙 7 種比較対照表	文化庁	1	
21	ヤンさんと日本人のシナリオ (和文)	国際交流基金	1	
22	ヤンさんと日本人のシナリオ (英文)	国際交流基金	1	
23	ヤンさんと日本人の教師用指導書	国際交流基金	1	
24	ヤンさんと日本人の Teacher's Manual	国際交流基金	1	
25	新日本文法研究	大修館書店	1	
26	変形文法と日本語 (上)	大修館書店	1	
27	変形文法と日本語 (下)	大修館書店	1	
28	日本語の分析—生成文法の方法—	大修館書店	1	
29	日本語教育のための基本語彙調査	秀英出版	1	
30	言語行動と日本語教育	凡人社	1	
31	日本語音声学	くろしお出版	1	
32	日本語の表記	角川書店	1	
33	漢字の語源	角川書店	1	
34	表記法	荒竹出版	1	
35	声を出して読む日本語の本	創拓社	1	
36	日本語の書き方ハンドブック	くろしお出版	1	
37	日本語教育映画基礎編 シナリオ集	国立国語研究所	1	
38	日本語教育映画基礎編 教師用マニュアル	国立国語研究所	1	
39	日本語教育映画基礎編 れんしゅうちょう	国立国語研究所	1	
40	Travel in Japan —日本紹介	海外技術者研修協会	1	
41	Introducing Japan	講談社インターナショナル	1	

C. 辞書

NO	書名	出版社名	冊数	備考
1	学習国語百科事典	三省堂	1	
2	英和辞典	講談社	4	
3	和英辞典	講談社	4	
4	NHK日本語アクセント辞典	日本放送協会	1	
5	日本語教育事典	大修館書店	1	
6	日本インドネシア語辞典	日本インドネシア協会	4	
7	現代インドネシア語日本語辞典	大学書林	5	
8	現代日本語インドネシア語辞典	大学書林	5	
9	基礎日本語学習辞典	凡人社	1	
10	マ日ローマ字辞典	Pelanduk Publications	1	
11	国語学大辞典	東京堂出版	1	
12	広辞苑	岩波書店	1	
13	日本を知る辞典	社会思想社	1	
14	新英和大辞典	研究社	2	
15	アボロ和英辞典	研究社	20	
16	年中行事辞典	東京堂出版	1	
17	新明解国語辞典	三省堂	2	
18	岩波英和大辞典	岩波書店	1	
19	ひらがなえじてん	ベストコミュニケーション	1	
20	基本語用例辞典	文化庁	1	
21	KAMUSU (Bahasa Jepun-Bahasa Malaysia)	Michiko Seki	252	生徒用 (M\$ 3で販売)

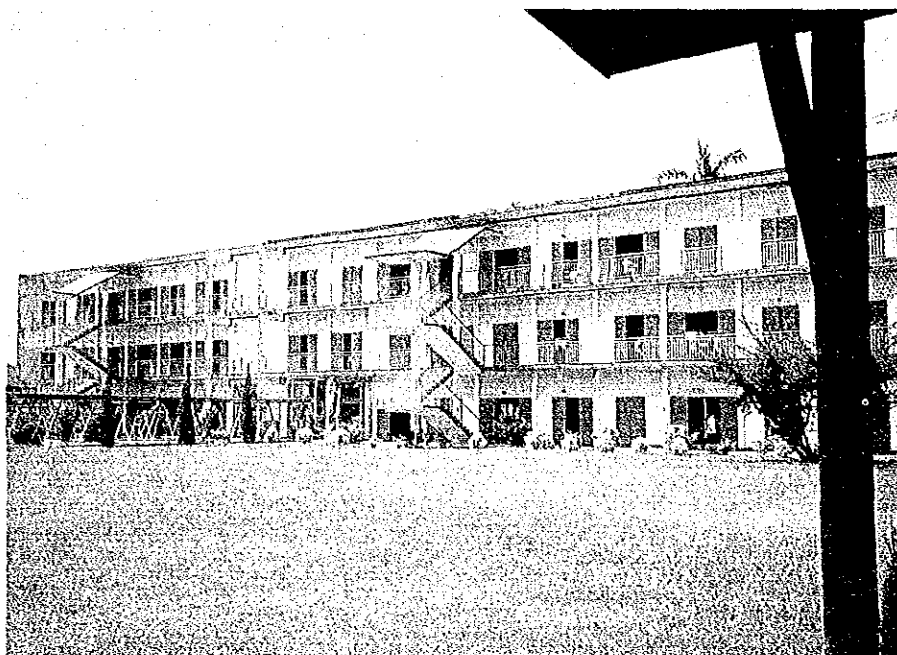
D. テープ・ビデオ				
NO	書名	出版社名	冊数	備考
1	実用日本語 I カセットテープ	新宿日本語学校	1	カセットテープ
2	Aural Comprehension Practice in Japanese	The Japan Times	1	
3	Practical Japanese Conversation	海外技術者研修協会	1	
4	ヤンさんと日本人のビデオテープ	国際交流基金	1	カセットテープ
5	ヤンさんと日本人のビデオテープ	国際交流基金	1	
6	日本語教育用ビデオ教材 L.1 ~ L.36	国立国語研究所	1	
7	外国学生用日本語教科書初級 カセットテープ	早稲田大学	1	語学教育研究所
8	日本語の基礎 I カセットテープ	海外技術者研修協会	1	
9	日本語教育用スライドバンク 生活シリーズ	国際交流基金	1	
10	日本語教育用スライドバンク 生活シリーズ	国際交流基金	1	カセットテープ
11	日本語教育用スライドバンク 12か月シリーズ	国際交流基金	1	
12	日本語教育用スライドバンク 12か月シリーズ	国際交流基金	1	
13	日本語教育用スライドバンク 場所シリーズ	国際交流基金	1	カセットテープ
14	日本語教育用スライドバンク 場所シリーズ	国際交流基金	1	
15	日本語教育用スライドバンク 留学生シリーズ	国際交流基金	1	
16	日本語教育用スライドバンク 留学生シリーズ	国際交流基金	1	カセットテープ
17	日本語学習ビデオ にっぽんのじ	日本テレビ文化事業団	1	
18	日本語学習ビデオ ひらがなのからだ	日本テレビ文化事業団	1	
19	日本語学習ビデオ おとをつかまえる	日本テレビ文化事業団	1	全6巻
20	日本語学習ビデオ ぶんのかたち (1)	日本テレビ文化事業団	1	
21	日本語学習ビデオ をとはとへ	日本テレビ文化事業団	1	
22	Japanese for Today-あたらしい日本語	学習研究社	1	全6巻
23	日本語初歩 カセットテープ	国際交流基金	2	
24	かぞえることば カセットテープ	日本テレビ文化事業団	1	
25	声を出して読む日本語の本 カセットテープ	創拓社	1	カセットテープ
26	VTR 日本語へのいざない	日本シネセル	1	
27	VTR さあ かぞえましょう	日本シネセル	1	
28				
E. その他				
NO	書名	出版社名	冊数	備考
1	ひらがな遊び (カード式)	公文出版	1	写真パネル
2	スライドバンク 生活シリーズ	国際交流基金	1	
3	スライドバンク 12か月シリーズ	国際交流基金	1	
4	スライドバンク 場所 I・II	国際交流基金	1	写真パネル
5	スライドバンク 留学生	国際交流基金	1	
6	学研中判日本全国地図	学研	2	
7	一年の日本地図	全教図	5	英語版単語帳あり
8	二年の日本地図	全教図	5	
9	三年の日本地図	全教図	5	
10	四年の日本地図	全教図	5	インドネシア語版単語帳あり
11	五年の日本地図	全教図	5	
12	六年の日本地図	全教図	5	
13	絵本 ことばあそび	岩崎書店	1	英語版単語帳あり
14	日本人の一生	日本語教育学会	1	
15	日本の地理	日本語教育学会	1	
16	日本の童謡	飯塚書店	1	英語版単語帳あり
17	カラオケ歌謡曲	二見書店	1	
18	初級レベル語学教育用 絵教材	海外技術者研修協会	1	
19	おもしろいあいさつカード	杏文堂	2	英語版単語帳あり
20	あいうえお えほん	Toda Design	1	
21	カタカナ えほん	Toda Design	1	
22	日本語の文法を考える	岩波書店	1	英語版単語帳あり
23	日本語はどうかわるか	岩波書店	1	
24	日本語をさかのぼる	岩波書店	1	
25	日本語	岩波書店	1	英語版単語帳あり
26	日本語の語源	講談社	1	
27	日本語の故郷をさぐる	講談社	1	
28	日本語の源流	講談社	1	英語版単語帳あり
29	歌詞集 (101 Favorite Songs Taught In Japanese Schools)	Japan Times	1	
30	日本語基本動詞・形容詞フラッシュカード	大日本図書株式会社	1	英語版単語帳あり
31	日本語かるた	凡人社	1	
32	光村読書シリーズ 一年	光村教育図書	1	

33	光村読書シリーズ 二年	光村教育図書	1	
34	光村読書シリーズ 三年	光村教育図書	1	
35	雨の日文庫 第二集	むぎ書房	1	
36	ひらがな五十音	全教図	13	教室掲示用
37	かたかな五十音	全教図	15	教室掲示用
38	一年で習う漢字の表	教学出版株式会社	2	
39	二年で習う漢字の表	教学出版株式会社	2	
40	三年で習う漢字の表	教学出版株式会社	2	
41	四年で習う漢字の表	教学出版株式会社	2	
42	五年で習う漢字の表	教学出版株式会社	2	
43	六年で習う漢字の表 (小学生の歴史年表)	教学出版株式会社	2	
44	おもしろいカタカナ教室用フラッシュカード	杏文堂	1	
45	美しい日本と子供の暮らし	杏文堂	1	
46	絵で教える日本語	凡人社	1	
47	すごろくゲーム にほんご探検	凡人社	4	
48	Romanized Japanese Word Book	日本交通公社		

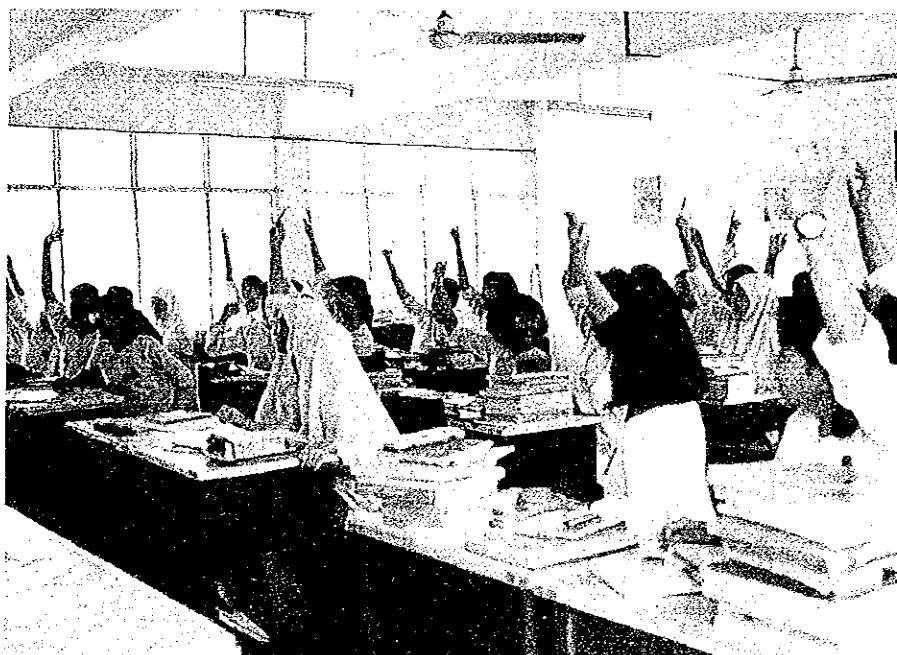
6. 現行カリキュラム

学期	月	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	備考	
一 学 期	前 期	12	教室用語 あいさつ ひらがな	かたかな 1～6 課	7～14 課	15～20 課	日本語能力試験 (中国正月休み)
				7 課	15 課	21 課	
		1	1 課	8 課	16 課	22 課	
			2	2 課	9 課		
			中間休み				
		後 期	3		10 課	18 課	
	4		3 課	11 課	19 課	24 課	
	5		4 課	12 課	20 課	25 課	
			学期末休み				
	二 学 期		前 期	5 課	13 課	15～20 課	26 課
		6 課		14 課		27 課	
		中間休み					
後 期		9	1～6 課 かたかな	7～14 課	1～20 課	21～27 課	SRP (3 年生)
		10				1～27 課	教育省試験 1、2 年共通テスト
		11	学年末休み				学年末試験 SPM (5 年生)

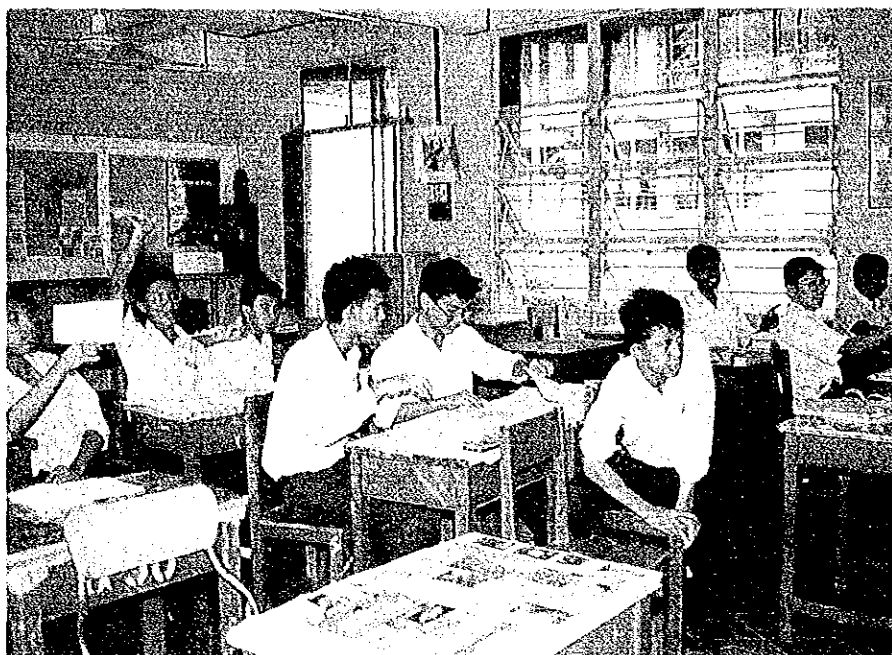
*ハリラヤ・・・断食月明けの祭日



学校風景：広い敷地にこのような教室棟、管理棟、寮などが点在する。（KTK）



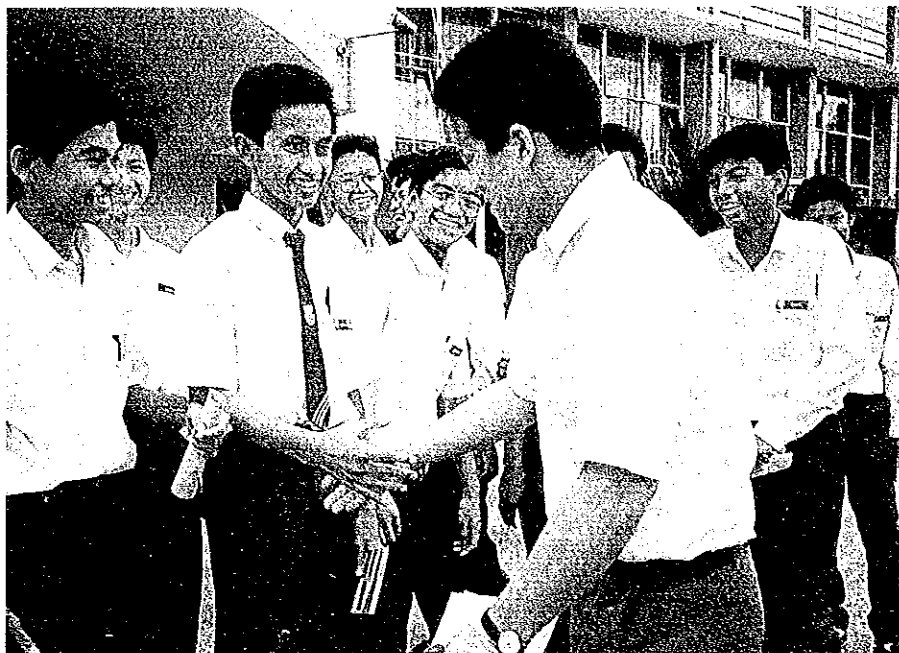
授業風景。（STF）



授業風景。(SAS)



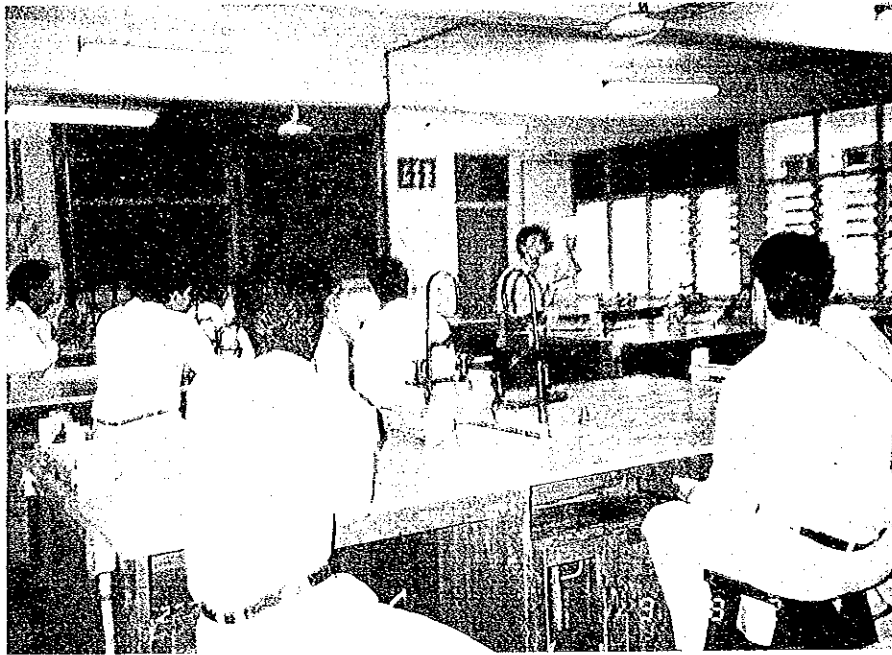
生きた教材に質問を浴びせかける生徒たち。(KTK)



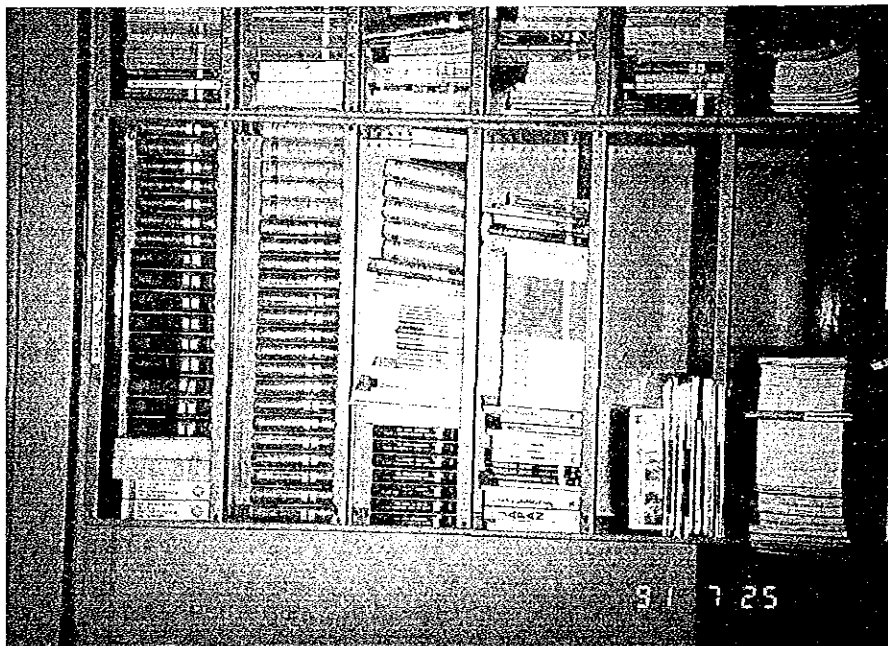
日本の姉妹校から生徒を迎えて。(S A S)



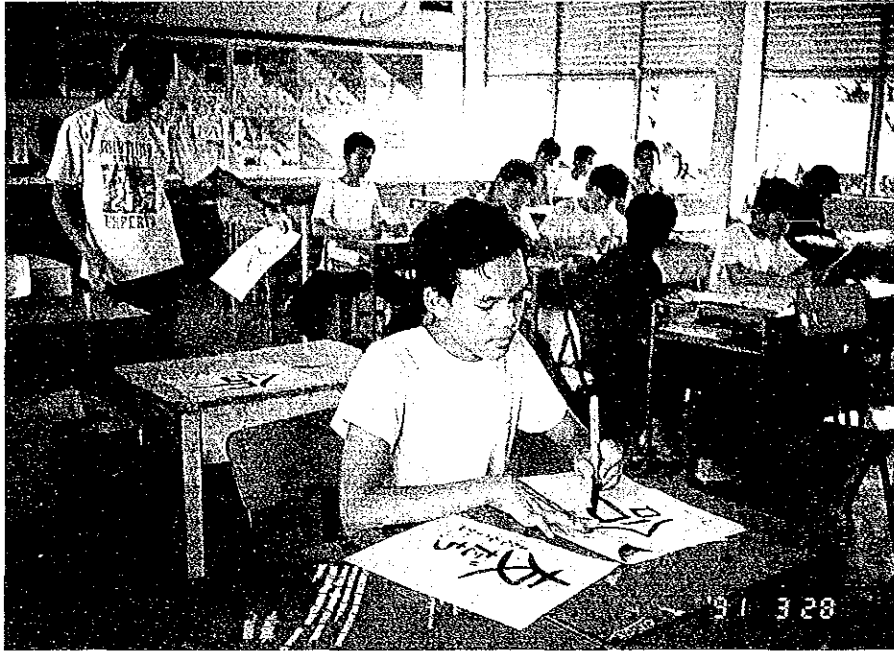
スピーチデイに生徒が日本文化紹介。(K T K)



移動教室：クラスを小さく分けると教えやすいが、
空き教室を捜さなければならない。（KMKK）



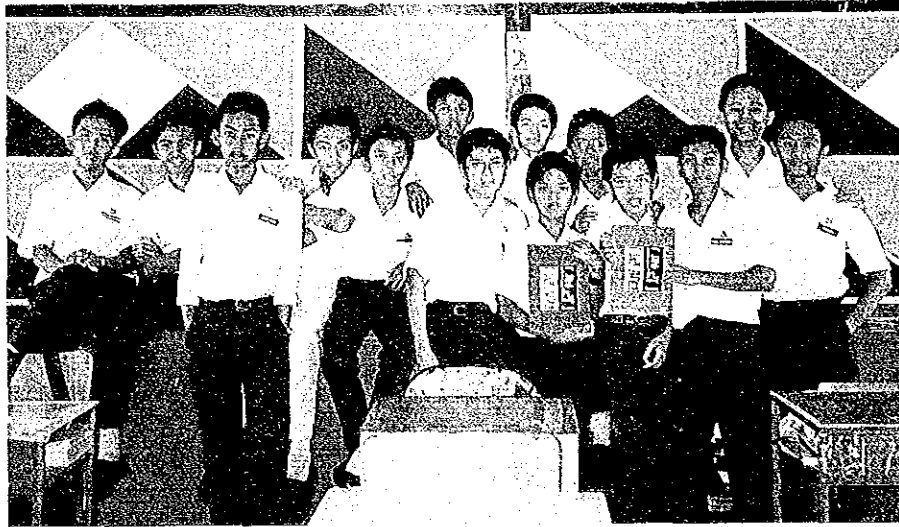
学校図書館の日本語コーナー：ここは多い方で、
ほとんど日本語書籍のないところもある。



日本語クラブで書道の練習。(STAR)



教材、資料活用の鍵は整理。(STF)



でき上がった教科書と問題集を持って記念撮影。
(STAR)



作文コンテストで表彰される入賞者たち。



他校の日本語クラブと交流。(S A SとK T K)



スピーチデイに生徒が日本文化紹介。(K T K)



授業風景：生徒より見学者の方が多い授業。
(KTK 1984)



日本人学校を訪問してゲームで交流。(SMSAH)

JICA